

学体連会報

発行日 平成 10 年 6 月 30 日
 東京都渋谷区代々木神園町 3 番 1 号
 国立オリンピック記念青少年総合センター内
 財団法人 日本学校体育研究連合会
 電 話 (03)3465-3954
 F A X (03)3465-7464
 発行者 浅田隆夫

地域におけるスポーツ指導者の育成 — これからの学校教育の活性化のために —



会 長 浅 田 隆 夫

平成 8 年 8 月の「教養審」の「カリキュラム等特別委」の報告では、学校への社会人の活用促進として対象教科の拡大や手続きの簡素化を計り、能力のある社会人を講師か教員として学校へ迎え入れる制度の改善について提言がなされました。

思うに、これからの体育教師の資質は、従来の運動技術スキル (Motor Skill) と知的心理的指導スキル (Cognitive Skill) 以上に、人格的な感性的スキル (Affective Skill) がより一層必要になるでしょう。この資質に欠けた指導者のもとではボランティアは育ちにくいし、ボランティアが育たなければ地域の連帯性や職場の人間関係の希薄化は解消も正もされないでしょう。幸い、地域にはこれに応える多くの人材が埋もれています。筆者が委員をさせて頂いている〇〇区の教委では、このような人材を発掘するためスポーツ指導者バンク制度を平成 9 年度に完成させました。このバンク制度は人材を養成して登録し、登録時に活用カードで希望調査するのが特徴で、この指導者の養成は、年 2 回・区指定の講習会を受講し認定 (10 単位) を受けることで登録 (期間・3 年間) が可能となり、更新の要件には年 1 回以上のボランティア活動が課せられることになっています。このバンク制度の成果を査定するために「審査委」(7~8 名) が、また、さきの養成講習会の内容を検討するために「認定委」がそれぞれ設けられています。このバンク制度は、本年 4 月から活動を開始しますが、この制度を有効に機能させるためには、次のようなことが重要になるでしょう。これには、(1)この制度を効果的に運用するための調整機構をつくること、(2)この調整者には教委の専門職員が当たること、(3)既成の各種の委員も区民と指導者を繋ぐパイプ役を努めること、(4)スポー

ツ指導者自らも情報を交換し合うために、全区的、また、地区別・種目別に「連絡会」を組織し、全区的な運営には専門職員が、地域別・種目別の運営には指導者自らが当たるようにすること、(5)区民にこのバンク制度を絶えず P R していくこと……などがあげられます。特に、学校教育との関係では、2002 年からの完全学校週 5 日制の実施に伴ない、学校・家庭・地域の連携の強化が求められます。少子化の傾向は都心に顕著で、当区でも子どもの減少と学校の小規模化が一段と進行している反面、子どもの多様なクラブや部活動に対応できなくなっています。

このような時、指導者バンク制度が、外部指導員などとして学校に派遣され教育活動の活性化に加わったり、また、複数の学校を 1 つの単位として対応することも考えられますが、いずれにせよ、将来的には学校を拠点とした地域スポーツクラブの育成・整備が望まれます。いうまでもなく、子どもを指導する場合には、一人ひとりの子どもの発達課題を知悉して運動処方することは当然ですが、区内の幼児には優先的に都外の区所有の野外施設を計画・利用して労作的体験学習を実施したり、また、他の市町村と友好親善関係を結び、長期休暇を利用して自然・野外学習を計画、実施することも大切なことです。さらに、この種の催事には両親も同伴し子どもについての新しい考え方を学ぶこともよいでしょう。特に、このような集団活動の中では、必要なルーティン的な活動や儀礼的な活動はキチンと行うことです。これが適切に遂行されるとゆとりができ、自己表現や出会いの機会にもなるものです。これらの行事的活動は、とかく集団指導にけじめが失われつつある今日、極めて重要なことで、これを日常生活に活かすようにしたいものです。

教育課程審議会(中間のまとめ)と小学校体育

常務理事

東京都小体研 会長

松 山 宏



はじめに

「生涯学習社会への移行」、「個性重視の教育」、「社会の変化への対応」(臨教審)、「生きる力」(中教審)、学校週五日制の完全実施、「時間数の削減」、「総合化(仮称)の創設」、「特色ある学校運営」(教課審)など学校教育の大きな変革をせまっている。まさに、学校教育の発想の転換を図り、実践をしなければならぬ教育改革の渦中にあることを認識しなければならない。

教育課程の基準の改善のねらいには①豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること②自ら学び自ら考える力を育成すること③ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること④各学校が創意工夫を生かし特色ある教育を展開すること(改善のねらいを以下ねらい)とある。これらは、体育全般に関連することであるが教科レベルでどのように考え実践に生かすかが問われる。今までの理念を踏襲しているが、今回の枠組みの中で、特に時間数削減との関連で考えることが必要であろう。

1. 体育の課題

まず課題として、走る、跳ぶ、投げる、など体力・運動能力の低下と運動に親しむことがあげられている。現行より15時間も時間数が減っているので運動量自体が物理的に少ないので困難なことである。従って、全教育活動や遊び時間も含めその他、運動をする場をすべて活用するという観点に立つことになる。まさに、いろいろな場面で生きる力を身に付けてやり、運動に親しむ能力を養う指導が求められる。

2. 基礎・基本の確実な定着を図る

そこで、改善のねらいにある基礎・基本の確実な定着ということが特に重視される。

何が基礎・基本かは異論のあるところだが、現在のところ学習指導要領の内容としておくが吟味が必要である。生涯体育・スポーツ観点に立てば、運動

の基本的な動きや技能はその基礎ということになる。

3. 自己責任を持たせる支援

指導するに当たっては、課題解決的な学習で思考・判断等を駆使して学習するように教師は支援することが肝要である。なお、ねらい②自ら学び、考える力を育成するためには、自分のすることに責任を持たせ、結果について、謙虚に反省し、次への動機づけとなるような支援が重要である。例えば、跳び箱運動において、めあてを持ち学習したところ、うまくいかなかったとしても、それを無駄とすることなく、他の者の方法や学習の仕方などを参考にしたり、影響を受ける柔軟な態度として、また、他に影響を与えるかかわりとしての資質が望まれる。チームとしての運動は集団の凝集性としてのかかわりがあるが、ねらい①と関連するところである。年間90時間、週2.6時間、そして保健の新しい内容、及び中学年から保健指導ということになれば、固定的な週の時間割はできにくいことになる。そこで、学校裁量となるわけで、時間の弾力的な運用が工夫されることが期待されている。

4. 学校の力が問われる

体育・保健としての教科の特性をしっかり和学习させ、運動に親しみ、運動の必要性を感じ健康に関心を持ち豊かな生活ができることが望まれる。学校や教師の力がますます問われるようになる時がきた。

また、「心の教育」がさげばれている。これもまた、『遊びやスポーツ(ルールがある)を教材とする体育は大きく貢献できる。非常に短時間の中で、激しい動きの中で、勝つことをめざし適切な動きの知的判断力や体力と技能、旺盛な闘志が要求される。そして、大きな精神的興奮を体験することができる。プレイはルールに抵触すると、その都度ルール遵守という知的作用が働いて、辛うじて誤った行為を抑制することができる。体育は、体の教育に加えて心の教育にも積極的に取り組み「心身共にたくましい子ども」の育成にも期待できる。』(初等教育資料)

「幼稚園の組織化」について考える

常務理事 下 平 喜代子

幹 事 小 西 啓 子

本会の長年の懸案事項の一つに幼稚園の組織化の問題があり、私達は、その課題解決に向けて努力することがねらいになっています。

何故今日まで組織化されなかったのか、私達なりに考えてみたのですが、一つには、幼稚園は小・中・高校と違って教科中心の教育ではなく、総合的な指導を行うところですので、領域を中心とした研究団体は殆ど皆無に等しいのです。つまり、小学校以上の教科と幼稚園の領域の違いからくる研究組織をつくるのは、難しいのです。

第二に、幼稚園の場合、東京都では、公・私立幼稚園の研究団体や、全国国公立幼稚園研究協議会、全国幼稚園教育研究等の研究組織の中での研究会には、なんらかの補助金が出ておりますので参加し易いのですが、個人負担の研究会に意欲的に参加する人が少なくなっています。

第三に、幼稚園の先生は若年層が圧倒的に多く、女性が殆どの職場で、結婚すると退職してしまう傾向もあり、教員の入れ替りが激しいことや、生活環境を考えてみても大変忙しく、このような条件の中で研究会に参加しにくい先生もあるようです。

以上のような状況の中ではたしかに幼稚園の組織化は課題が多いと思われます。

東京都の学体連幼稚園部会も、ここ数年、組織化されつつあり、夏季の研究会にはその機能を発揮してくるようになりました。

この研究会には幼稚園をはじめ、保育園の先生や小学校の先生方も研修に加わっていただき、中には遠方からの参加者もあって、充実した実技研修を行っております。

研究会に参加した先生方からは、講義・実技とい内容のある研修会だったという声を聞いております。このように幼稚園部会は、地味地ではありますが、今年で、29回目の夏季研を迎えています。

各都道府県でもなんらかの形で研修会が行われていると思いますが、是非組織をつくって運営して欲しいと思います。

近年行われた全国大会に出席した時感じたことですが、秋田県、奈良県のように価値ある研究発表をした園には、表彰に値するものがありました。幼稚園も小学校以上の学校と歩調を併せていける日が来るものと確信しています。特に、国をあげて家庭教育や幼児教育の重要性が叫ばれている今日、早急に、その実現を図りたいものと考えています。

平成9年度奈良大会の時は、本会の調査部で行った「幼児の運動遊びの内容、指導に関する調査」で「幼児教育の現場でどんなことが最も重要だと思いますか」という設問に答えていただいたところ、保育目標、保育方針、保育内容、毎日の活動のおさえ、心身の育ちとの関係等、直接保育に関わる事柄や、子供の将来に向けてどうあるべきかに関心が深いことがわかりました。また、保育者は何をなすべきか、どんな子供に育てたいか、個々に必死で手さぐりしていることも知りました。前述で、小学校以上の教科と幼稚園の領域の違いが研究組織を作ること困難にしていると述べましたが、視点を考えてみますと、幼稚園の良さは、むしろ教科学習ではない点でしょうか。換言しますと、日々の幼稚園の生活そのものが、体験学習につながり、日々の体験的活動に一貫性を持たせることが可能です(教科学習での体験的活動は、学習の単元が変わるたびに活動の内容も変わらざるを得ないのでから)。

幼稚園では体験学習を伸び伸びと取り入れることができます。それ故、日々の保育の蓄積が必要ですよ。そのための研究や研修が必然でしょう。

今後、研究に関心の深い保育関係者を手がかりにして、本会も魅力ある研修の場を提供できるように努めます。それが突破口となり幼稚園の組織化が実現し、全国大会等で功労者の表彰、優良園に選ばれる日も、遠い夢ではありません。それは、保育研究者の励みになりますようお願いいたします。

(編集部では、当初「対談形式でわかり易く」とお願いしたのですが、Q&A形式では紙数が足りないということでとり止めになりました。因に、お二人は、竹早教員寮母養成所幼稚園園長の先生です)

優良校の研究課題管見

理事長 伊藤 忠 一



本連合会は全国大会で体育優良校と体育功労者の表彰を行って来ている。平成9年度も体育優良校として131校が表彰された。中央審査会の方に提出された研究紀要は、それぞれの表彰校の学校をあげての研究実践の成果であり、地域の学校の体育活動の振興にも役立つ内容である。

学校種別ごとに研究主題を分類してみると、今現場が目指している方向が浮き彫りされてくる。保体審などの答申の内容と無関係ではない。かつての師範学校付属小学校・中学校が果たしていた先導試行的役割を優良校と評価される学校が担っているようにも思われる。

提出された87校中56校(64.4%)の学校は2～3年間、文部省・教育委員会の研究推進校、研究実践校、指導推進校等の指定を受けている。

文部省の指定を受けていた学校は36校で、小学校は体力づくり、中学・高校は武道と運動部を課題にしている。

教育委員会は小中高共に学習指導を課題に研究推進校を指定している。

参考までに学校種別毎の内容を紹介すると、次の通りである。

小学校では、○運動の楽しさや喜びを味わい技能の向上を目指す児童を育てるにはどうすればよいか…一人一人のめあてを達成させる支援を通して○子ども一人一人が特性を生かしながら運動の楽しさや喜びを味わえる学習指導の工夫…器械あそび・器械運動の指導を通して○心身ともにたくましくめあてに向かって仲間と取り組む体力づくり等である。キーワードとして、楽しさ、喜び、意欲的に、めあてを持ち、主体的に、仲間と頑張る、思いを大切にひびきあう等がみられる。学習・指導の分野では、主に器械運動、陸上競技を学習内容に支援のあり方、自己評価基準等が課題になっている。

中学校では、○個が生きる部活動-競技志向と楽しみ志向の融合○一人一人の個性がいきる運動部活動をめざして…地域と学校の連携をめざして○生涯スポーツの基礎を培う部活動のあり方…自ら意欲的に学び、行動する生徒の育成をめざして…○自ら学ぶ意欲を高め、豊かな心を育成する武道指導はどうあるべきか等である。キーワードとして、楽しさ、

充実感、自主的、自発的、主体的、意欲的、目標を持つ、個を生かす等がみられる。学習・指導では選択制授業の場の工夫、新学力観に基づく評価が、武道では武道の特性を生かした指導の展開が、運動部では生涯スポーツとの関連、地域と学校との連携、競技志向と楽しみ志向の融合等がそれぞれ課題になっている。

高等学校では○選択制武道指導における自己教育力の育成を目指して○普通科における運動部活動の活性化と魅力ある学校づくりを目指して○生涯スポーツを視野に入れた自己教育力を高める体育指導○自己学習力を高める選択制授業をめざして○武道の特性に触れ個性を伸ばす指導のあり方○共に学び共に鍛え共に敬う武道指導…男女が共に学ぶ武道の指導等である。キーワードとして、自発的、自主的、自己教育力、自己学習力、個性を伸ばす等がみられる。学習・指導では生涯スポーツ、選択制授業の進め方、体力づくり、武道では特性を生かした指導、女子の武道、男女が共に学ぶ、運動部では部活動の活性化、生涯スポーツとの関連、学校づくりとの関連が課題になっている。

21世紀を目指して提起されている、中央教育審議会・保健体育審議会・教育課程審議会の(1996～1997)教育改革・改善のための答申は最近の世相背景に生きる力とゆとりを核にして種々の提案が行われている。体育優良校の実践的研究の課題をまとめてみると、キーワードにみられるように、答申案が求めている内容をそれぞれの学校の独自性のなかで、先導試行的に行っているように感じた。これからは各地域の体育優良校の実践的研究の成果を基盤にして、地域の特性を生かした教育活動を展開していくことが、これまで以上に求められる。

そのためには、各地域の小・中・高の学体連組織を有機的に融合させ、学校種別間の関連を密にすることや家庭・地域社会で行われる教育活動との連携を図ることも、学校の教育効果を高めるために有効な対策である。体育の学習が体育科教師と児童・生徒の関係で成り立っていることを考えれば、教師の果たす役割の重要性を改めて感じた。教師が変わらなければ、学校教育の基調の転換は期待できない。

平成9年度 第2回 — 第36回大会(奈良県) —
理事・評議員会及び代表者会議議事録

副理事長 杉山 進



日 時 平成9年11月5日(水) 14:00～16:30
会 場 春日野荘
出 席 者 理事・評議員 58名
教育委員会関係者 25名
司会進行:伊藤理事長
記録:杉山副理事長

第2回理事・評議員会及び代表者会議開会の宣言の後、伊藤理事長の司会の下に行われた。

会長挨拶(浅田)

今年度5月24日に行われた第1回理事・評議員会で「心の教育」を強調いたしました。その折、本来の教育は家庭教育にあるということで、特に幼児教育の重要性から、幼稚園の組織作りをしていきたい旨の提案を致しました。運動遊びによって幼児はしっかりした感覚神経が培われていくので、幼児の運動は非常に大切です。

そこで、今年は、幼稚園の組織作りについて、現場では何が問題になるかを討議していただきたく思います。そして、幼稚園も学体連に参加していただきたい。また、この会議で学校体育の諸問題、功労者に対するアンケートのまとめを中心にして審議いただければと思います。

議長選出

規約により浅田会長を議長に選出した。

議 事

報告事項

1 議題と資料の確認 [伊藤常務理事長]
第2回理事・評議員会及び代表者会議の議題を配布資料により確認と説明があった。

2 平成9年度第1回理事・評議員会 [杉山常務]
平成9年5月24日、東京体育館の第一研修室で、

伊藤理事長の司会で開会、進行致しました。

まず出席状況について報告があり、出席者35名でしたが、委任状提出者が20名あり、定数の2/3以上で定数を満たしました。

浅田会長から挨拶があり、本連合の設立の経緯、事業内容について説明されました。特に、本学体連は教科体育の研究に力を注ぐべきであること、その成果を県大会や全国大会に反映すべきであることが強調されました。さらに、教育改革に触れ、「生きる力」、「ゆとり」、「個性尊重」、「一人ひとりの能力適性」に応じた教育を展開しようとする学校体育のカリキュラムづくりやこれらの扱いについて、教科内容・指導を如何にすればよいかなどについて説明があり、これらの点について現場教師から論議の高まることが望まれると訴えられました。

続いて、北海道の村岡学評議員から順に、沖縄の大浜勝彦理事まで、続いて常務理事と幹事および事務職員の自己紹介が行われ、議事録署名人として川端春生(東京:理事)、松浦史郎(奈良:評議員)、池芳昭(岡山:理事)の3人の方々に指名しました。

寄付行為第28・30条により、浅田会長を議長に選出し、議事にはいりました。議事は全部で10点です。

1) 平成8年度事業報告

(1) 第35回全国学校体育研究大会を10月24、25日、秋田県民会館を中心に開催し、1910名の参加者がありました。

(2) 全国保健体育優良校・功労者の表彰を10月24日に行い、優良校143校、功労者158名を表彰しました。

(3) 講習会・研修会をそれぞれ、幼稚園の部と小学校の部、中高等学校の部で開催致しましたが、参加者が少ないことが、今年度の反省材料となりました。

(4) 助成事業では、全国大会開催助成として、平成8年度開催県の秋田県に100万円、平成9年度開催県の奈良県に20万円、平成10年度の岡山県に30

万円助成しました。

(5) 会報第34号を5月末に発行する予定です。

(6) 各種会議、理事・評議委員会を開催致しました。

2) 平成8年度収支決算報告・監査報告

収入の部につきましては、賛助会費が、当初より400万円ばかり決算額が多くなっていますが、これは会長はじめ担当理事の尽力によるものです。それによって収入合計が予算額より202万7671円収入が多くなりました。

歳出の部については、年を追って、収入が苦しい状態になるということを予想して、支出は押さえてきました。事務所の新築のために、昨年より200万円ずつ積み立て、また、本学体連が40周年を迎えるので、その事業費などのための費用として200万円積み立てました。以上の理由により繰越金を相当額出しました。また、社会情勢により企業から特別賛助費を頂く額も減りつつあるので、繰越金として残しておく必要性のあることが報告されました。

この報告に対して、会計処理も誤りなく、執行状況についても適格であったとの監査報告が監事からありました。

3) 平成9年度事業計画

(1) 第36回全国学校体育研究大会が11月6・7日、会場は奈良県で第1日目が文化会館、2日目が12分科会会場で行われる予定である。

(2) 全国保健体育優良校・功労者の表彰を11月6日に実施、それとあわせて資料集を作成する。

(3) 講習会・研修会、それぞれ幼稚園の部、小学校の部、中等高等学校の部をそれぞれ開催する。

(4) 助成事業、全国大会開催県への助成として平成9年度奈良県に100万円、平成10年度岡山県に20万円、11年度茨城県に30万円交付する。

(5) 会報第35号を平成10年5月発行する。

(6) 各種会議、理事・評議委員会を開催する。第1回理事・評議委員会を5月24日に東京体育館で、第2回理事・評議委員会及び代表者会議を奈良県で11月5日に行う。中央審査委員会を、7月12日国立代々木オリンピック記念青少年センター、常務理事会を各月1回ずつ開催する予定である。

4) 平成9年度の収支予算

収入の部の加盟分担金につきましては、平成8年度と同額です。特別賛助会費については、教育シューズ関連の賛助会費が相当額減るとの見通しがありますが、昨年の決算に見合った金額で予算を立てました。

支出の分について、総合計は昨年並ですが、繰越金が昨年度より400万円少なくなります。

5) 功労者維持会員制度（仮称）

本部から表彰を受けた方を対象にアンケート調査をしたが、功労者維持会員制度（仮称）については反対の意見が多かった。維持会員制度は当分留保することとした。しかし、やはり自助努力ということもしなければならないので分担金等の負担増を考へなければならないのではないかという意見が多くあった。

6) 平成9年度全国保健体育優良校・功労者表彰提出手続きについて確認と依頼をした。また、資料集の購入についても県の協力を要請することになった。

7) 平成9年度研修会の内容

幼稚園の部は、平成9年の7月28日～29日に、竹早教員保育養成所で行う。小学校の部は足立区立千寿小学校で8領域にわたって行い、修了証を出す。中学校・高等学校の実技研修会は私立十文字高等学校で実施する予定である。

8) 平成12年度以降の全国大会開催県

平成12年度は会長を中心に交渉を行い、平成13年度は宮城県、14年度は北海道、15年度は三重県で開催される運びになっている。

9) 第36回・37回の全国大会の準備状況

奈良の松浦氏から、文部省と学体連の本部との指導の結果、準備も着々と進んでいる旨の報告があった。

岡山県の池理事から、昨年の6月に発足した準備委員会を近日中に実行委員会に切り替えること、主題は、「遊び・スポーツのある豊かな社会と学校体育の役割」を考えていること、開催期日と会場は11月12、13日、岡山市と倉敷市で行い、全体会場は岡山市のシンフォニーホールを予定しているとの報告があった。

10) 会報第34号の発行

会報は、例年5月末発行となっているが、毎年、理事・評議員の決定の遅れから発行が遅れるので、何とか少しでも早く各県の理事・評議員を決めて頂きたいとの依頼があった。

以上第1回理事・評議員会について報告しました。議長：何かご意見・ご質問がありますか。ないようですので次の報告をお願いします。

3 平成8・9年度常務理事事務分担 [伊藤理事長]

学体連の事務局は国立代々木オリンピック記念青少年センターにあり、週3日山本さんがおります。

大きな財務・総務・会計・庶務は常務理事が分掌・処理している。40周年記念、将来構想企画、学校体育関連での各問題については、別途、委員会をつくり対応している。

これで第1回理事・評議員会の報告が終わりでした。

議長：以上の報告に対して御意見、御質問ありませんか。（意見・質問なし）

では、次に移ります。

4 学体連会報の件 [森常務]

会報34号を6月30日に発行致しました。1ヶ月遅れの発行でございますが、役員・理事・評議員一覧表がそろいませんとなかなか発行できませんので、ご協力おねがいたします。

議長：それでは出来るだけ早い決定と連絡をお願いします。

5 研修会の件 [松田常務]

全国学校体育実技研修会の報告を致します。幼稚園・保育園は、今回で、28回目になります。今年は、7月28日・29日に竹早学園竹早教員保育養成所で行いました。1日目は、「たくましく生きる子供を育む運動遊び」西村先生、実技として「パントマイム」吉沢先生、「美容・健康体操」角田先生、2日目はビデオ視聴とパネルディスカッション、「運動会作りのための工夫と手法」、「運動会のための作品集」、実技として「幼児の救急法実習」、「実践主義の傷病観察と心肺蘇生」小西先生といった内容でおこなったわけです。

小学校も28回目になります。7月31日、8月1日に東京都足立区千寿小学校でおこないました。内容は、実技研修で8つの領域をおこないました。1) 基本の運動、2) ゲーム、3) 体操、4) 器械運動、5) 陸上運動、6) 水泳、7) ボール運動、8) 表現運動です。講演として「生きる力とこれからの体育指導の在りかた」と題して（筑波大学の高橋先生）おこないました。

中・高等学校は、7回目で7月5日私立十文字学園高等学校体育館でおこなわれました。研修種目は創作ダンス、名倉先生。内容は、動きの引き出し方などでした。

議長：以上の報告に対して御意見、御質問ありませんか。ないようですので、引続いて願います。

6 学校体育の諸問題に関する調査結果 [森常務]

アンケートを行い、学校体育功労者74名に回答頂きました。調査内容は、以下のような項目について行いました。

- ・新しい体育の学力観にたつ授業の仕方の問題
- ・教科領域再編成の問題
- ・教科体育・社会体育の関係領域について
- ・各学校段階ごとの教科体育の役割について
- ・学校・家庭・地域社会の連繫の問題
- ・学校のスリム化の問題
- ・学校週5日制完全実施上の問題
- ・教員資格の弾力化の問題
- ・体育課程の在りかたや重点化について
- ・教育内容の厳選と改善について

アンケートの方法は自由記述で、配布資料にあるように回答は一通り全文掲げております。詳しくは、後程お読みください。

議長：以上の報告に対して御意見、御質問ありませんか。（意見・質問なし）

審議事項

1 平成10年度以降の全国大会開催について [松田常務]

平成10年度岡山県、11年度茨城県、12年度青森県、13年度宮城県、14年度は北海道で行うことになっております。12年度は今年になって青森県にお願いすることになりました。

議長：以上の報告に対して御意見、御質問ありませんか。それでは開催県の方々よろしく願います。

2 支部活動について [森常務]

支部活動のアンケートを平成9年度9月に行いました。そして、39支部より回答を頂きました。その結果、総会を連合として行っているのは、17支部です。小・中・高それぞれで総会を行っているのは、小学校21支部、中学校17支部、高校23支部です。次に研究大会を連合としておこなっているのは、24支部で、300人以上10～20万円の予算。小学校は、22支部200～500人 30～50万円の予算。中学校は、20支部200～500人 30～50万円の予算。高校は、21支部100～200人 10万円未満の予算。内容は、講演会・研究発表・公開授業・シンポジウム・実技研修などです。2つめは、明日から全国大会がおこなわれるわけですが、その中に幼稚園部会があります。ところが、活動がなく学体連としては、幼稚園部会も将来的に取り上げて行きたいと考えています。のちのブロック会議で幼稚園部会の可能性、問題点など

をお話し頂ければと思います。

3 つめは、本部組織に要望や意見がありましたらブロック会議でまとめてお教え頂きたいと思ひます。

議長：意見、質問ありませんか。ブロック会議での議題については、お話し頂きたいと思ひます。

3 次期開催県の準備状況について〔岡山県・池理事〕

平成10年度の11月・12日と13日に開催いたします。研究主題は「遊び・スポーツのある豊かな社会」、「学校体育の役割」ということで、今11校でいろいろ研究に取り組んでおります。参加費は、5,000円になります。出席されている先生方にはお帰りになりまして、何卒多くの参加を呼び掛けて頂きたいと思ひます。

議長：参加費5,000円、従来より500円増額するということですが、本部としても開催県の事情を勘案して認めざるを得ないように思いますが、なにか御意見・質問がありませんか。

〔秋田県・安藤〕：参加費などを含めた規程、例えば全国大会の開催準備要項のようなものが現在ありません。それを作成すべく本部の方で検討して頂きた

いと思ひます。

議長：御意見有難うございます。この全国大会開催要項については、本部の方で検討させていただきます。

これで、本部が準備した議題は全て審議頂きましたが、この他ありませんでしょうか。それではこれで審議を終了させていただきます。

この後のブロック会議では、①平成10年度以降の全国大会について、②学校体育の諸問題について討議頂きたいと思ひます。特に②については、幼稚園の組織化の問題についてご討議を頂くようお願いいたします。

この後、開催されたブロック会議で、改めて参加費の値上げの件を議題として取り上げて欲しいとの久保氏（埼玉）からの提案があり討議した。安藤評議員（秋田）から、要項については今後の問題として、今回の岡山県からの値上げの件のみここで了解を得て欲しいとの意見が出され承認された。

4 その他

特別賛助会員の紹介が深川常務理事からあり、それぞれから挨拶があった。

各ブロック会議のまとめ

ブロック会議の発表内容

	① 全国大会開催について	① 学校体育問題(幼稚園の組織化)	③ そ の 他
北海道 東 北	平成12年度青森 平成14年度北海道：学校体育研究連盟が母体	北海道・秋田は小・中と高は別 青森は小・中・高合わせた連合 山形：小、中、高と別 幼稚園の組織化は非常に難しい	
関 東	平成11年度茨城県：準備委員会発足、水戸市を中心に平成11年11月11、12日開催	幼稚園の組織化必要	参加費の値上げについてはこの会議で承認が必要ではないか。大会基準要項を作成する必要がある。 補助金を頂きたい
東 海 北 陸	長野県：平成13年度までできない 富山県：組織化に問題あり、持ち帰って検討する 三重県：平成15、16年度に開催見込み	組織化を重点目標に努力する（北陸） 小、高は組織化できるが、中はこれから、合併しての研究会は経済的に難しい面がある（東海） 幼稚園部会については持ち帰って検討する	
近 畿	平成18年度京都	連絡協議会的な研究発表会を開催している 幼稚園部会については現状把握が先決の問題である	補助金の増額を希望する
中 国 四 国	平成10年度岡山	私立幼稚園が多く組織化難しい 国立幼稚園を対象に「健康・遊び」部会のようなものをつくって呼びかけるのも一方案	補助金の増額を希望する
九 州	平成13年度宮崎	特殊学校部会は高校部会などに入っているが、組織的にはできていない。 幼稚園部会は学習内容などの関係で困難	平成12年度中体連の全国大会、平成13年度は宮崎で全国大会があり、協力をしてほしい。

基調報告（第36回全国学校体育研究大会）要旨

奈良県実行委員会基調提案部

三上 憲孝・馬場 浩行・梅本 雅人・諏訪祐一郎

研究主題設定の理由

本大会の研究主題は「21世紀を生き抜く、生涯体育・スポーツの深化を図る体育学習・運動遊びの在り方を求めて」です。

急激な社会の変化に対応して、人間と運動・スポーツの関わりも大きく変わろうとしています。余暇時間の増大による生活の変化や高齢化社会における健康・体力への必要性に伴い、その関心は高まりを見せています。学校体育の在り方も「生涯体育・スポーツ」を実践していくための基礎的能力を培うことがより重要視されてきています。未来を生きる幼児・児童・生徒が体育・スポーツ活動に親しみ、生涯にわたって生きがいをもち、心身ともにたくましく、個性豊かで活力に満ちた生活を営む能力や態度を育成することが学校体育の重要な役割であるといえます。そこで私たちは、本研究大会の開催にあたり、それぞれの発育、発達過程をふまえ、校種が密接に連携して、個に応じ、個を伸ばす指導の在り方を探究しました。特に、現行の学習指導要領の施行以来、数年を経てその定着から21世紀を目指した学校体育が模索されてきている現在、新しい思考と挑戦が必要です。そのことがまさに「深化」であると捉え、実践的研究を進めてまいりました。

研究主題の具現化と課題の明確化に向けて

中央教育審議会答申で、「生きる力の育成」「ゆとり」をキーワードとして21世紀を展望した教育方針が打ち出されています。これを体育学習にあてはめると「自己教育力」「たくましい身体と心」の育成ということになります。すなわち、自分で課題を見つけ自ら解決する能力や豊かな人間性、また、たくましく生きるために健康や体力を培うことと言えるでしょう。それらを具現化するために、運動・スポーツに対する意欲、自己決定や能動的な態度の育成が重要視されています。具体的な授業の展開として、小学校では「めあて学習」、中学・高等学校では「選択制授業」がそれぞれの方向性であるとされています。また、各学齢期における情意面では、小学校低学年～中学年では「運動をすきにさせる」、小

学校高学年～中学校1年生では「運動の楽しさに触れさせる」、そして中学校2年生以降では「運動を得意にさせる」というプロセスが大切であり、それらの体験が生涯にわたる運動・スポーツに親しむ態度の育成につながると考えられています。

そして、運動・スポーツへの愛好的態度を育成するためには、その活動をうまく実行できるという自信をもつ「自己効力」の期待概念が必要といわれています。「自己効力」とは、ある結果を生み出すために必要な行動をどの程度うまくできるかという「効力期待」とある行動がどのような結果を生み出すかという「結果期待」に区別されます。生涯体育・スポーツの実践者になるためには運動・スポーツに関わる学習を支える意欲を培うための効力感を高め、内発的に動機づけられていくことの重要性を示唆しているといえます。

そこで研究主題を具現化し、小・中・高校の発達段階における課題を明らかにするために、「運動に対する愛好度調査」「運動の内発的動機づけに関する調査」「運動の自信に関する調査」を行いました。
調査結果の概要

運動・スポーツに対する愛好的態度は、小・中・高校とも総体的に高い傾向を示しますが、学年が進むにつれて低下傾向が見られます。これは、個人の関心や興味が運動・スポーツだけでなく様々な分野に個性化、細分化されていく結果といえます。

体育授業に対する愛好的態度は、学年が進むにつれて低下傾向が見られます。特に、校種が変わる小学校から中学校、中学校から高校へ進学する時期に大きく低下しています。この傾向は進学による児童・生徒の学習環境の変化に伴うとまどいや不安が要因であると推測できます。しかし、体育授業への愛好度が校種の変化によって大きく低下することは、生涯スポーツの基礎を培う観点からも大きな課題を提起していると考えられ、体育授業の在り方についてより一層小・中・高の連携を密にしていかなければならないことを示唆しています。

運動・スポーツの愛好度に比べると、体育授業へ

の愛好度の方が低い傾向があります。特に小学校では両者の間にそれほど差が認められないのが、中・高では体育授業に対する愛好度の低下が顕著になります。生涯スポーツに寄与する体育授業の在り方を検討する必要が現れているといえるでしょう。

運動・スポーツに対する継続意欲は学年が進むにつれて上昇する傾向がみられます。生涯スポーツを目指す観点から「運動を継続して行いたい」という意識や健康・体力に対する関心から運動・スポーツの必要性が認識されていることは評価できます。

人間は運動に対して様々な動機・期待を持ち、行動との関係からみた場合、内発的動機づけと外発的動機づけに大別されます。人間が運動に対して動機づけられるためには、内発的な楽しさと外発的な楽しさをうまく組み合わせることが必要であり、内発的な楽しさの多くは楽しさの中でも中核となる楽しさとされています。ところで、今回の調査では、自ら進んで運動・スポーツに参加しようとする意欲である「積極的運動参加」とさらに高い次元で主体的・計画的に参加しようとする意欲である「主体的運動参加」はともに学年が進むにつれて低下する傾向がみられました。特に校種の変わる時期に大きな低下傾向がみられます。これは、体育授業に対する愛好度の変化と同様の傾向といえます。学年が進むにつれて社会的条件が認識できることによって、外発的動機づけの要素が増えてくることに伴う変化と推測することもできます。

「積極的運動参加」において、体育授業が「好き」とする児童・生徒の方が「嫌い」とする者に比べて高い値を示しています。「主体的運動参加」においては「積極的運動参加」ほどの差は認められませんが、体育授業が「好き」とするものの方が高い傾向を示しています。つまり、より内発的に動機づけられている児童・生徒のほうが体育授業が好きで、運動・スポーツの独自の魅力を味わい、積極的に体育授業に参加しているといえることができます。この傾向は校種間に差は見られず、校種を問わず「運動の楽しさ」に触れる体育授業の展開が一層求められているといえます。特に「主体的運動参加」を見ると、愛好度に大きな差が見られなかったことから、児童・生徒の「積極的運動参加」を期待するだけでなく、主体的・計画的に取り組める学習指導の必要性が示唆されています。

内発的に動機づけられているということは、「有能さ」を感じたいという欲求に動機づけられて行動することといわれていますが、体育授業において「身体的有能さ」だけを運動の有能感として捉える

ことは問題があります。「運動に対する自信」は、(できたという思いを持つ)「身体的有能さの認知」、(やればできるという思いを持つ)「統制感」、(認められているという思いを持つ)「受容感」から構成されているからです。

「運動に対する自信」は、「愛好度」及び「内発的動機づけ」同様、学年が進むに連れて低下する傾向がみられます。また、体育授業を「好き」だという気持ちの高い児童・生徒の方が「運動に対する自信」も高いことが示されています。身体的有能さの認知、統制感、受容感の全てにおいても同様の結果が得られました。このことから、「運動に対する自信」を高めていけば、児童・生徒の体育授業に対する愛好的態度的向上が期待できるのではないかと考えられます。

各校種の研究の概要

幼稚園「自ら全身を動かして、遊ぶ喜びや心地よさを味わうことができる環境と援助の在り方」

思いきり身体を動かして遊ぶことによって心地よさを味わうことから、調整力、がまんする力、ねばり強さ、判断力、人を思いやる心、美しさに感動できる豊かな人間性が育まれると考えます。そこで、全身を動かして遊ぶ喜びや心地よさを味わうことができる環境を創造し、工夫することによって、子どもたちが主体的に環境にかかわり、生き生きと生活し、直接体験する中で人として豊かに生きる力の基礎が育っていくと考えます。これらの観点から、より適切な環境や援助の在り方を明らかにしていくことを目的とし、「太陽と一緒に遊ぼう」をキーワードに研究に取り組みました。

小学校「運動の楽しさを味わい、自発的・自主的に取り組む体育学習をめざして」

子どもにとって、自分の持っている力を発揮できる場面がどれだけあるかがその運動に対する興味・関心につながってくると考え、重点的に取り上げる単元や児童の興味・関心や能力にあった計画の工夫、児童の活動を重視した学習過程の工夫、個人差に応じた指導の工夫について明らかにしていくことを目的としました。これらを「子どもと指導者が共に考え、創る学習」「運動の自信を高める授業の展開」「白熱のゲームや技の追求をめざした授業」「TT方式による授業の工夫とルールや動きを子どもがつくる授業」を課題として研究しました。

中学校「生徒の多様な特性を把握し、一人一人が運動の楽しさや、喜びを味わうことができる体育学習の在り方」

生涯にわたる運動・スポーツへの積極的な関わり

につなげるために、生徒一人一人が各自の興味・関心や能力・適性を生かしながら自ら進んで課題をみつけ、その課題を解決する能力や態度を育てていくことが重要であると考えます。また、中学生期に「運動・スポーツは生涯を通じて必要な生活の内容」として捉えることは重要です。生徒にとって「運動する意味は何か」「学んだことを多様な生活の中はどう生かしていくか」という観点も含んだ体育学習の在り方を明らかにしていくことを目的としました。これらを「限られた施設設備を有効利用した選択制授業」「剣道におけるTT方式授業及び選択制の評価」「内容の充実を図った学習カードを利用した選択制授業」を課題として研究しました。

高等学校「自ら運動の楽しさを深め、生涯にわたるスポーツを実践する力を育む体育学習」

自らを律しつつ、互いに協調し、相手を尊重する心や感動する心などの豊かな人間性を培い、命を大切にするという観点からも選択制授業を実践してきました。自分で課題をみつけ、自ら学び考え、主体的に判断し、行動し、解決する資質や能力を培うことから、運動が得意になり、楽しさを深め、生涯にわたるスポーツを継続していくことができるようになる体育学習を明らかにしていくことを目的としています。「自己への挑戦を視点にした授業」「自己教

育力を目指した選択制授業」を課題として研究しました。

障害児教育諸学校「体を動かす楽しさにふれ、生涯にわたって運動する意欲を育てる体育学習をめざして」

障害児教育諸学校では、子どもたちが多種多様な障害をかかえ、さらに障害の重度・重複化傾向が著しくなるなかで、きめ細やかな対応が求められています。このため、子ども一人一人の可能性の開発に努め、社会参加や社会自立をしていく力の育成を図ってきました。体育学習でも、障害の状況や特性等に配慮した取り組みにより、卒業後の社会生活にもつながる「自ら進んで運動に親しむ能力や態度を身につけ心身を鍛える」「生涯にわたり楽しく明るい生活を営むための基礎づくり」をねらいとしています。そこで、運動する意欲や自主性を培うことに焦点をあてた体育学習を明らかにすることを目的として、「どの子も楽しく生き生きと活動できる体育学習」をキーワードとして研究しました。

以上、基調報告といたします。

(付記) この基調報告の要旨は、奈良大会の当日、三上憲孝氏が報告された全文を、常務理事・森知高氏に特にお願いして2.5頁分にまとめて頂いたものです。(編集部)

第 4 代会長

訃報

今村嘉雄先生のご逝去



先生は、昨秋11月19日(同日付 叙従三位)胆石のため93才の天寿を全うされました。先生が体育・スポーツ・体操・武道の各界に残された功績は尽大で、これも先生が稀にみる才能の上に努力の人であったことによるものと思います。このことは学卒後直ちに母校東京教育大学の助教授に抜擢されたことでもわかります。以後、先生は、新制大学創立後、長期間に亘って大学経営の中心として、そのもつ天才的な力量を発揮されました。例えば先生は、新制大学発足と同時に(昭和24年)体育史講座の教授になられ、昭和26年には47才の若さで学部長を併任、31年までその職にあり、偉大な数々の功績を残されました。私は昭和27年、体育史と体育原理兼担の助手として先生の傍で勤めるようになりましたが、その頃の先生の充実したご様子は、まさに「飛ぶ鳥を落とす勢い」でありました。

先生はまた、母校教育学部の博士課程の授業を担当され、自らも昭和36年文学博士の学位を得られました。先生の念願であった体育科学研究科の博士課程は筑波大学で結実しました。さらに先生は、日本の武道学会等の理事長・会長としても大きな足跡を残されました。特に、昭和50年から60年まで月刊誌「武道」に毎月寄稿される傍ら、「日本武道大系(全10巻)」「近代剣道名著大系(全14巻)(いずれも共編著)などを公にされるなど、先生の史家としての碩学の一端を伺うことができます。

本連合会に対するご功績は、「学体連小史」にもみられる通り、本会の草創期から第4代会長職を退かれるまで32年の長きに亘って尽力されました。本会の事業は、先生によってその基礎が確立・完成したといっても決して過言ではないでしょう。ここに謹んで哀悼の意を表し、先生のご冥福をお祈りいたします次第であります。

浅田 隆夫 記

— 分科会会場 参観記 —

第 1 分科会 <常務理事 下平喜代子>

奈良市立西大寺北幼稚園 園長 西田 雍子
研究主題 「生き生きと主体的に活動する幼児をめざして」— 心も体も、ふれ、ゆれ、はずむ環境の創造 — のもとに公開保育、研究発表が行われた。4 学級編成、年長 2 学級、年少 2 学級、園児数 99 名、教職員 9 名の構成。創立 22 年。独立園舎。

公開保育 は、晴天に恵まれ園庭いっぱい全園児が伸び伸びと活動していた。「おはようタイム」が始まるよ。みんな出ておいで — の呼びかけで、三三五五園庭に集まってきた。園庭には、手づくりの遊び用具が次から次へと運び出され、遊びが展開されていった。その遊具でひときわ目立ったのが、牛乳パックの利用であった。中でもボーリングの遊び場では、レーンになる囲いの部分を、牛乳パックで長くつなげて設置し、ピンになる部分をペットボトルに色水を入れる等、遊びの場の構成に工夫が見られた。まさに、教師と子どもの共同作業である。このような場面が園庭いっぱい環境設定がされている。

更に、子どもの動きをみても遊び方に創意工夫が

見られ、異年齢の交流する場面も見られた。

幼児期は、身体が著しく発育するとともに、運動機能が急速に発達する時期である。この時期に自分のやりたいことが十分にできるような環境を用意し、幼児が能動性を発揮できることが重要である。

参観者の先生方にとっても、主体的に活動する幼児の姿に、深く感動したようである。

研究発表 椿山輝美主任より、研究内容と実践について発表があった。発表内容は具体的実践的であり、視聴覚教材を利用しての発表で、指導経過も理解し易かった。研究主題に迫る「心も体もふれ、ゆれ、はずむ」の研究の視点は、まさに子どもの側に即した内容のものであった。「幼稚園は環境を通して行う教育である」を地で行った研究だった。



< 第 1 分科会 >

第 2 分科会 <副理事長 杉山 進>

奈良市立三碓小学校 校長 榎田 勝也
 会場校はみつがらす (三碓) 小学校と読む。新興の住宅地にある創立 17 年目の学校で、平成 6 ~ 8 年間に文部省体力づくり推進校に指定された。児童の転入出が多い半面、父兄は教育熱心という土地柄だという。

「児童が自発的・自主的に取り組む体育学習をめざして」の研究主題の下に、公開授業 1 として、2 年生のゲームと 6 年生の陸上運動、公開授業 2 として 3 年生の基本の運動と 5 年生のボール運動が公開された。この内 2・6 年生の授業を参観したのでここに報告いたします。

2 年生のゲームはネット型ボールゲームとして、「ネットをはさんで、ファイヤードッジボールをしよう」の単元名で行われた。BGM が流れる中で、子供達の非常に元気が目立った授業であった。コートの中真ん中にバドミントンネットを張ってのドッジボールで、オーバースローを制限することによって

多様な投動作への気付きを促したり、作戦面、そして安全性の面からも工夫の見られた内容であった。

6 年生の陸上運動はハードル走で、「めざせ！ハードリングアスリート — やぶれ！0.4 秒の壁 — 」という単元名で実施された。多くの参観者を取り巻く中で、大変堂々とした生徒の態度が印象的であった。事前にビデオ撮影によって各自の走り方を提示し、課題を見つけ出してからの授業であった。ハードルにも恐怖感を与えないような工夫と同時にハードルを飛び越す時のフォームが見易いように、移動式の壁をおいたり工夫が見られた。記録を取りながら、生徒同士で互いにアドバイスしながら充実した授業であった。



< 第 2 分科会 >

第 3 分科会 <常務理事 松田 智男>

大和郡山形市立郡山西小学校 校長 大野 充雄
 「一人一人が楽しく意欲的に取り組む体育学習の在り方」— すべての子どもが運動の楽しさにふれる指導方法の工夫 — を研究主題として、「ゲーム (ハンドボール型)」と「体操 (なわとび)」の授業を参観したので報告します。

「ゲーム (ハンドボール型)」は 3 年生男 15 名、女 15 名計 30 名の授業。ねらいは、協力しルールを守って安全に楽しく、めあてを持った練習やゲーム、素早く動いてパスをつないでシュートする、ことでした。12 時の 10 時限目。6 名 1 組の 5 コート。指導者 2 名です。授業の展開は班別に準備運動 → 3 人パスと 2 対 1 のパス・シュート練習 → ゲーム 4 回 → 反省・整理運動の順で行われました。



< 第 3 分科会 >

学 体 連 会 報

②よく動き非常に楽しく運動をしていたこと。③ゲームの間に反省し作戦のたて直しの時間を設けてあったこと等です。ねらいにあるように、作戦を工夫し、パスをつないで楽しくゲームをしていました。3 年生にしてはよくできた授業でした。

「体操 (なわとび)」は 6 年生男 15 名、女 9 名計 24 名の授業。ねらいは、グループで動きを工夫し、リズムなわとびを楽しむ。9 時の 7 時限目。4 人 6 グループの体育館での授業です。授業の展開は班毎の準備運動 → めあての確認 → リズムなわとび → 2 班同士で発表 → リズムなわとび → 反省・整理運動の順で行われました。

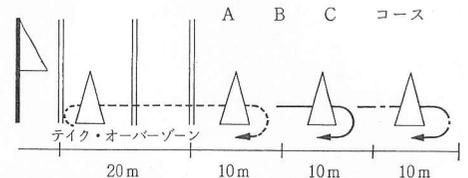
印象に残った点は、①音楽に合わせてストレッチやなわとびをやっていたこと。②自分たちが創ったリズムなわとびを発表し、相手が気付いた点や工夫した点を指摘してもらっていること。③練習のあい間や授業終了時に、気付いた点やアドバイスを受けたことがらをカードに記入していたこと等です。

全体的にみて、多くの児童は運動が好きで反省を繰り返しながら、熱心にかつ積極的に授業を受けていました。ねらいに則した授業が展開されており、さすがに体育優良校に値する学校だと思いました。

第 4 分科会 <常務理事 松山 宏>

天理市井戸堂小学校 校長 小林 征夫
 1. 【学校紹介】 農業振興地域と調整区域が主な校区で、真ん中に、たちばな街道がある。147 名の小規模校である。平成 8 年度より、文部省・奈良県教育委員会の「体力づくり推進校」。研究主題「運動の楽しさを味わい、自ら進んで取り組む体育学習をめざして」として、主題の考え方を明確にして、仮説を 4 つたて、研究構想がしっかりしている。

2. 【授業参観記】
 (1) 業間・業前活動 全校リレー
 1 年から 6 年までをそれぞれ 8 つのグループに分けて縦割りに編成した班でリレーをする。



班で A、B、C コースを走る者と何番目に走るかねらいを相談して、記録を縮めることを目標としている。教師が記録をとりまとめて結果を発表していた。走り方がよく、回り方やバトンパスの仕方が大変上手で、楽しくやっていたのが印象的であった。

(2) 授業 ① 1 年、基本の運動 (器械、器具を使つての運動) スーパーマリオのだいぼうけん
 準備運動後みんなで協力して、器械、器具を選び場 (6 つの場所にマット、跳び箱、平均台用具等) の設定を安全に気をつけ素早く行っていた。多くの用具類を使う授業においては組織的に準備や後かたづけができることは授業の充実に必要なことである。回転系、倒立系、切り返し系などのできる動きや工夫して挑戦する動きで活動し教師の支援で楽しく行っていた。

② 5 年 ボール運動 (バスケットボール型) シュウティングゲームを楽しもう
 準備運動で主運動につながる動きやドリルゲーム (基礎・基本になるような運動技能や戦術能を高める) を位置づけ 1 チーム 4 ~ 5 人とし、ゴールを楽しむためにドラム缶を利用しているところが参考に

なる。

③ 2年 ゲーム (ネット型ボールゲーム) スーパーげんこつゲーム

コートに地面から50センチぐらいの高さにひもが張ってありネットとしてビニールに子どもが絵を描いたものが7～8枚ぶらさがっていた。バウンドしたドッジボールを相手チームに3回以内で返すゲームである。味方にパスするときは平手でし、相手に返すときはげんこつで強く打つようにして返すゲームである。ゲームの感覚や投げる力が楽しみながらつきそうである。

第5分科会 <常務理事 金森 久>

生駒市立生駒北小学校 校長 須藤 宮子
平成5年に創立百二十周年をむかえた古い歴史と伝統を誇る学校である。15学級の学校であり、ほかに、障害児学級(杉の子)を3学級設置している。

本校は平成7・8・9年度、県教委指定の学校保健体育推進校となり、研究領域を「表現運動」と「ボール運動」に絞り、授業実践の研究を中心にすすめてきた。「一人一人が楽しさを味わい、共に高め合う体育学習」を研究主題として公開授業を行った。研究の視点として次の3項目をあげている。①楽しさを味わう学習——各領域の運動の特性を明らかにし、その楽しさを味わう学習の効果的な支援活動のあり方。②共に高め合う学習——子どもたちが共に高め合うための指導のあり方。③個に応じた学習——一人一人を大切にするためにチームティーチングの授業形態。

3年生は、表現運動「もこもこもこ」の学習で、障害児1名も参加していた。指導者は障害児学級担任の男性教師と学級担任の女性教師で、チーム・

第10分科会 <常務理事 金森 久>

奈良県立北大和高等学校 校長 大庭 清
本校は県北部地域住民の期待に応え、普通科校として昭和49年4月に開校され、各学年9学級の大規模校である。昭和61年度から文部省指定の「体力づくり推進校」として、体力づくりを通して意欲的な生徒の育成を実践してきた。さらに、平成7年度より、県教委から学校保健体育推進校として指定を受け、選択授業のあり方について取り組んでいる。

④ 6年 器械運動 (マット・跳び箱)

単元名 わたしのオリジナル

教師の詳細な実態把握と教材研究により、自分で進んで計画が立てることができる学習カードやビデオを使った自己評価・見合い学習をし、場の工夫により協力して活動していた。教師は適切な声かけをして、励ましていた。



工夫したネット

ティーチングにより、役割分担を明確にして学習の支援活動を行っていた。「もこもこもこ」の絵本の音読に合わせて即興で表現する。また、手製の大きなカルタを多数床に置き、児童はそれをめくり、いろいろな言葉のリズムに変身させて表現する。障害児も担任の横で一緒に運動し、所属グループに入って楽しく表現している姿に感動した。

5年生は、ボール運動で、みんなの「ショット・キャッチ」(バスケットボール型)を1グループ3人～4人が話し合ったルールにより対抗戦を行っていた。「チームの特徴を生かした作戦をたて、ゲームを楽しむ」ねらいで、手製のゴールを使っていた。

チーム・ティーチングが教師間の相談により、教材研究が深まり、よりよい教具を開発することなど効果をあげ、さらに、子どもたちが意欲的に学習し、自分で課題を見つけて学ぼうとする態度が他の領域・教科にも広がったと述べている。体育の学習で培った力を全教育活動に密接に関連づけられることはすばらしいことである。

「生涯体育の基礎を培う選択制授業の研究について(副題——自己教育力を引き出す授業をめざして)」を研究テーマとして授業が公開された。研究仮説6項目のうち、「体力・技能など個人差があるなか、男女共習の授業形態を基本とすることで、より楽しく運動を実践できるであろう」が特色としてあげられる。本校では、平成5年度より選択制授業を実践し、初年度は3年生のみを対象として球技の選択を行った。平成9年度は、各学年実施し、陸上競技・

器械運動・剣道・ダンスから選択させるなど球技以外に拡大した。とくに、ダンスも含め、全種目において、原則として男女共習を実践研究している。

2年生の球技選択授業は、サッカー・ハンドボール・ソフトテニス・バスケットボールの4種目で、各種目とも男女混合のグループを編成し学習活動をしていた。とくに、サッカーでは、3グループに分れ、学習内容が各グループ違い、あるグループでは男女混合による3対3のミニゲームを行っていた。

第6分科会 <常務理事 森 知高>

奈良市立伏見中学校 校長 土肥 義嗣

伏見中学校は、歴史豊かな平城宮跡の西方高台にある。大阪、京都への交通の要に位置し、近年は都市化がすすんできている。したがって、校区は繁華街、住宅地、農業地と雑多な環境で構成されている。22学級、825名の生徒数を持つ大規模校である。体育施設として運動場、体育館、武道場、テニスコート2面を所有しているが、生徒数の多さを考えるとその運用には苦勞していることが察せられる。公開授業は、「体操」と「選択制(器械運動、剣道、バスケットボール、ソフトボール)」であったが、時間の都合で体操しか参観できなかった。選択制での施設使用と内容・活動の工夫が報告できないのが残念である。

体操の授業はTT方式であった。ともにきびきびとした男女の教師による指導である。それぞれが有機的に協力しながら授業が進行されていた。本時の主内容はエアロビクスであった。単元計画でいえば、いよいよ本格的にエアロビクスの動きの楽しさを味わう段階に入ろうとするところである。それらをグ

第7分科会 <副理事長 杉山 進>

奈良市立富雄中学校 校長 篠原 弘州

中学校部会の研究主題は「生徒の多様な特性を把握し、一人一人が運動の楽しさや、喜びを味わうことができる体育学習の在り方」の下に、第7分科会では「一人一人が目標を持ち、楽しく意欲的に取り組む体育学習」を目指した授業研究を進めてきた。

公開された研究授業は武道(剣道)と球技選択(ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、サッカー)の授業であった。文部省から武道推進指

研究の成果として、男女共習の授業形態で、より協力的な姿勢が見られるようになり、学習効果の高い授業にもむすびついたと述べている。今後の課題の一部をあげると、3年間の系統的な技能習得や知識理解に結びつく授業の実施、体力向上へ向けての授業展開の工夫、教師側の評価基準の確立である。

運動の特性、ねらい(例えば、体力の向上)などを考慮し、男女混合グループによる男女共習について、新しい課題として検討することが望まれる。

ループ学習によりながらそれぞれのレベルで協力しあい、教えあいながら学習している。

本授業の特徴は、様々な指導の工夫にある。しかも、その工夫は教具・教育機器あるいは指導方法にとどまるものではなく、身体運動や身体認識開発のための新しい教材の導入、開発にもある。教具・教育機器では、各種カード、パネル等の多様さ、豊富さが、また、CD、VTR、プロジェクターの有効利用が目についた。本時で紹介された身体運動や身体認識開発のため(参観者はそう感じたのである)の新しい運動は、ボディートークと呼ばれるもの(わりばしを使った動きづくり)である。ボディートークは軽い発声を伴いながら体をゆるする運動である。体をほぐし、体を通して心を解放していく方法ということで取り組んでいた。わりばしを使った動きづくりは、2人で1本のわりばしを片手のひとさし指で押さえあいながら、落とさないように動いてみるというものである。2人でコミュニケーションをはかりながら、新しい動きを探っていくとするものであった。一度試してみたいかでしょうか。

定校として、剣道の授業を全学年男女必修科目として実施しているということで、メインの午後の剣道の公開授業は参観することができなかったのは非常に残念であったが、球技選択授業を参観することができたのでここに報告する。

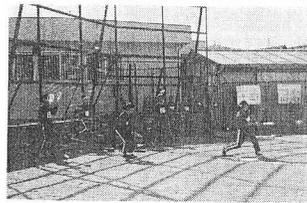
選択制授業の目的として①さまざまなスポーツの中から、自分に合ったものを選ぶ能力を育てる。②スポーツへの主体的な取り組み方を育てる。③スポーツの楽しさや喜びを味わうための学習の仕方を育てる。の3点を目的としている。

事前事後の生徒への調査を実施することによって、授業による生徒のスポーツへの動機づけの効果を測定してきており、生徒の授業参加態度からしてそれらの結果が活かされていることを感じた。

どの種目の授業も男女混成のチームをつくり、種目や性差によるハンディをルールによって制限し、楽しめるゲームにしていた。チームノートや個人カードの内容の充実ぶりとともに、とても目を引いたのは、ソフトボールの授業のルールであった。男子がバッターの時、特製の柔らかいボールを使用し

打球の飛距離をコントロールしていたことであった。

ただ、サッカーの授業においては、男女混成チームにおける、女子への関与の仕方の難しさがあったように感じた。



＜第 7 分科会＞

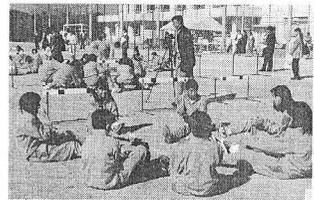
第 8 分科会 <常務理事 小池 國雄>

奈良市登美ヶ丘北中学校 校長 谷原 圭太郎
研究主題「生徒の多様な特性を把握し、一人一人が運動の楽しさや喜びを味わうことができる体育学習の在り方」のもと、第 8 分科会では研究主題を「一人一人が運動・スポーツとの結びつきを高め、生活の一部として楽しく意欲的に取り組む体育学習」とし、研究発表・授業公開が行われた。

公開授業Ⅰでは、1年陸上競技、男女共習の授業が行われた。幅跳び、3段跳び、100m、60mハードル、ハンドボール投げの種目をグループ毎に学習した。パウチカードの学習資料により、各グループが仲間と協力して課題に向って生き生きと取り組んでいる姿に深く感銘した。校庭も広く、体育館・武道場、テニスコートなど体育施設・設備面で大変充実している学校でうらやましい限りである。

公開授業Ⅱでは、3年球技の選択制授業が、男女

共習の型で行われた。種目は、卓球、バドミントン、ソフトテニスの3種目。バドミントンを選択した生徒が多く、所狭しと楽しく主体的に学習カードの計画にそって取り組んでいた。



＜第 8 分科会＞

今回の公開授業の中では、多く行われてはなかったが、評価活動の場が一時間の学習過程の中しっかりと位置づけられている事が重要であると感じられた。課題を見つけ、その解決に向って実践しそして評価し、新たな目標を立てていくと言った、フィードバック学習の必要性を再確認した。

第 11 分科会 <常務理事 松田 智男>

奈良県立郡山高等学校 校長 笹岡 健司
本校は明治 9 年に開校し、県内では百余年の歴史をもち、3 万余名の卒業生を社会に送り出している伝統ある学校です。教職員 80 余名（体育 7 名）、生徒数 1,200 余名の大規模校です。

「武道（剣道）の特性を生かし心豊かな人間性を育てる授業」を研究主題に、2 年生 2 クラス 2 展開（剣道：男 22、女 28、ダンス：男 12、女 28）の授業であった。

剣道の授業は男女共習で男女がグループ毎に教えあい、相手を尊重し思いやる態度を育てる。教師主導から生徒主導へ、一斉指導から班別学習への歩みに重点をおいた授業であった。

本時は 35 時の 22 時限目の授業で、攻撃を予測し機

会をとらえて隙を打つ、元太刀の重要性を再認識する、班毎に協力し各自の不得意な技の練習を行い技能を高めることを目標に展開されました。内容は防具の着装、打ち込み、対人技能、十字稽古（4 人 1 組で互格稽古）等でした。

授業を通じて感じたことは、第一に生徒は授業に真剣に取り組んでいたことです。隙があれば打突される剣道の特性もあるが、自分で選択した種目であり、生徒主導で授業が展開されていたからだと思えます。第二に安全面への配慮がみられたことです。班毎の防具等の点検、竹刀の破損による事故防止のためのカーボン竹刀の確保、老朽化した剣道場であるが整美され気持ちよい雰囲気の中で授業が展開されていることを感じました。第三は授業の質を高める工夫がなされたことです。一斉指導から班別・グルー

プ活動へと移行するため、個人学習ノートを活用しノートには生徒自身が本時の課題・活動内容や反省を記入し、自己評価や相互評価を行い、学習意欲の向上を目指していたからです。ノートにはきめ細かく書かれていました。

そのほか、平成 8 年度に剣道を選択した女性徒は 16% でしたが、9 年度には 35% に増え、剣道に親しむ雰囲気校内に広がったこと。相手がいるからこそ自分の技能が進歩する気持ちを持たせたので、相手を尊重し思いやる態度が高まったこと等があげら

れます。

よき授業はよき指導者によってできることを実感しました。老朽化した剣道場は床上を歩くと音がしたが、周囲の壁には、剣道をやるうえで激励される格言が掲げてあり、例えば「試合して打とうとすれば心に隙が出来、攻める心に打ちが生まれる」ほか幾つもあり、物心両面からの指導・管理のよさに感動いたしました。

郡山高校体育科の更なる発展を祈っています。

第 12 分科会 <理事長 伊藤 忠一>

奈良県立西の京養護学校 校長 林 秀昭
西の京には薬師寺、唐招提寺の古刹等文化財が多く、小高い丘の上に建つ学校は日当たりも良く、自然環境、教育環境に恵まれているというのが第一印象だった。学校の教育方針は小学部・中学部・高等部教育の一貫性と児童生徒個々の能力および特性等に応じた指導の重視で林校長先生のお話でも教師間の意志の疎通を図り、一人一人の教師が持ち味を生かし、いきいきと教育活動に参加する雰囲気づくりに努めていることが経営の重点にあげられていた。

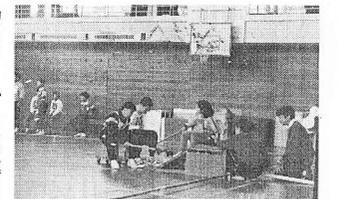
体育館では中学部 1～3 年の生徒 22 名が 6 名の先生と元気よく活動していた。コートの中真部分には教具が用意され体育館に来た生徒はコートのまわりをランニングして授業開始を待っていた。全員揃っての準備体操も先生方が生徒の中に入り生徒の動きを引き出すなど適切な指導がなされていた。題材として、学校オリジナルゲームの「カボカボゲーム」が行れた。ゲームに使用する道具類も先生方が生徒の運動能力の程度等を考慮されて創作されているので生徒たちもゲームボード、スティックを巧みに操作し、ボールをゴールに運ぶことができ、ゲームの動きも活発だった。配布された指導案によれば基本からゲームまでの学習内容が用意されていた。隣接の七尾養護学校体育館で高等部 2、3 年生 20 名の「室内サッカー」の授業が 5 名の先生方の指導で行れていた。授業の後半だったので 5 対 5 のゲームが展開されていたがチームとしてのまとまりのあるゲームが行れていた。

柔らかいボールを使用して当る恐怖感をやわらげたり、すねあてを使用して脚部を保護したり、シュートエリアを設定してキーパーとの接触を防止したりと生徒があまり恐がらずにゲームに参加できるよう配慮がなされていた。また援助が必要な生徒にはチームの先生がゲームの中で適切に指導していた。

体育館の側面にボールが当たってもゲームが続行できるというルールなのでゲームが中断することが少

く、生徒の運動量が多いように感じた。

第 2 限目は小学部 1、2、3 年生 12 名が 11 名の先生方の指導での授業だった。



＜第 12 分科会＞

「からだ・リズム」の授業は、音楽やリズムを聴いて先生や友達と一緒に楽しく身体を動かすことを目指して行っていた。体育館にはいろいろの用具が準備されていて、何かを期待される楽しい雰囲気一杯だった。授業参観者に囲まれていても児童たちはあまり気にしないで活動していた。「遊園地であそぼう」という題材でバスに乗って遊園地に行き、遊園地の乗り物に乗ったり、動物に出会って一緒に遊んだりするというストーリーに沿って活動できるように、乗り物や動物の絵を用意したり、動物の帽子をかぶった先生が動物の真似をしたりして、遊園地の楽しい雰囲気を身につけていた。ピアノ伴奏の先生が身体を動かしやすい曲を選んで児童の動きや授業の流れに合わせて側面から授業を支えていた。チームで行う授業は教師集団の連携が不可欠であるが授業に参加できない児童に対する臨機応変の援助も含めて事前の打合せが良く行われているように感じた。

児童・生徒の可能性を引き出すために教育環境が良く整備され、小中高の一貫した教育を行うために各部の特性を尊重しながら学校全体としての考え方が授業の中に示されていた公開授業だった。

音楽やリズムを聴いて皆と楽しく身体を動かすことを目標とした段階から卒業後の余暇活動としての生涯スポーツにつながるようにすることを目標とした段階までの学習内容を児童生徒の実態に応じてどう展開するかが今後の課題であるように感じた。

第36回全国学校体育研究大会(奈良大会)を終えて

奈良県実行委員会
委員長 松浦 史郎



平成9年11月6日(木)7日(金)両日秋晴れの澄みきった青い空の下、第36回全国学校体育研究大会・奈良大会が深まりゆく秋の古都、そして正倉院展公開の最中、全国から学校体育関係の先生方約2,300名をお迎えし、奈良市を中心に四市会場で2日間開催されました。奈良大会を推薦していただいた平成6年より県学校体育研究会は、新たに幼稚園を仲間にし研鑽と組織力の強化に力を注ぎ幼・小・中・高・障害児教育諸学校の学校体育関係者が一丸となり、平成9年11月6日・7日を目標に準備をすすめ、平成9年2月に実行委員会を組織し、各部門毎に活動を重ね、その集大成を当日をもって参りました。

研究主題設定には、文部省・学体連本部・県教育委員会のご指導とご助言をいただき決定の運びとなり、21世紀に向けた生涯体育のあり方・5日制に伴う心身の活動のあり方等を各校種・園によりサブタイトルをつけ研究をすすめ、それぞれの学校・園の幼児・児童・生徒の実態や地域の実情を把握しながら発表に至りました。6日の第一日目・全体会では、県文化会館での開会行事・表彰式・そして基調提案を実行委員会研究部が3部門に分けてスライド等より提案を行い、明日への分科会・公開授業の参考へと道標を致しました。昼食時間を利用しての公開演技、この演技では各校種・園の代表校・園児・児童・生徒の「やまと」を表現すべく年齢にあわせてわらべ歌や独創的に古都の特徴を姿にした創作演技を披露し参加者を釘づけしました。次いで「生きる力とこれからの学校体育」と題して、文部省体育局体育課・本村清人教科調査官から教育課程中央審議会の改善の方向性として共通理解をされている基本的な考え方、1 調和のとれた人間形成、2 自ら学んで自ら考えていく力、と今後の学校体育との係わりを解説していただきました。

第一日目最後の全体会では、かつて奈良教育大学で教鞭をとられ、県下に数多くの学校体育関係の教え子をもっておられる筑波大学教授・高橋健夫先生

から「子どもが求めるよい体育授業の条件」と題してご講演をいただき、参加された先生方は本音の、本当の体育授業とは何かを求めて最後まで耳を傾け第一日を無事終ることができました。

二日目(7日)も好天に恵まれ、雨天プロはどこへやら各分科会場ではサブテーマにそって子どもたちが大いにハッスルした公開授業を行い、過去にみられなかった各会場とも満員という盛況のうち大成功裡に二日間の全日程を終了することができました。

大会終了とともに岡山県との引き継ぎ会をもち、その後の反省会の中で、大会・発表会は指導の延長であり、一つの流れの途中であり、この日が本県に向けられた本当の問題提起の日であるということを通理理解するとともに、これからが眞の学校体育が問われるのだということを確認新たにしたい大きい実りのある大会でした。

奈良大会を開催するにあたり、文部省をはじめ日本学校体育研究連合会、奈良県教育委員会及び奈良市、大和郡山市、天理市、生駒市の各教育委員会の絶大なご指導とご支援を賜りましたことを紙面をおかりし衷心より厚くお礼申し上げます。さらに各分科会では当を得た指導・助言をしていただき分科会をより充実していただきました講師の先生方、そして各会場で運営・設営等に携わっていただいた本県関係者の方々、そしてなんと言っても全国各地から2,300余名の先生方の御協力があってこの二日間大成功に導いていただきました。ありがとうございました。

本大会で得ました大きな収穫や教訓を今後の本県学校体育充実・発展へ生かしていく所存です。

この大会の運営・企画等に適切なご指導とご支援ご協力を賜りました香川県・秋田県の両学校体育研究会関係者に対し、厚くお礼申し上げますとともに、第37回〈岡山大会〉の成功を祈念します。

末記ですが、本大会に係わって二足わらじをはきながらご苦心していただいた実行委員会の先生方から心からお礼申し上げ報告とします。

次期(第37回)全国大会(岡山県)を迎えて

岡山県実行委員会
会長 小林 一征



第37回全国学校体育研究大会が平成10年度岡山県で開催されるにあたり、ご挨拶申し上げます。昨年11月6日(木)・7日(金)両日、奈良県文化会館をメインとして第36回大会が盛大にそして成功裡に開催されましたこと心からお喜び申し上げます。奈良大会の学校体育関係者皆様方の一致団結してのすばらしい大会に感動いたしました。

さて、岡山大会に向けてのこれまでの取り組みの経過を申し上げます。まず、平成6年度末から平成7年始めにかけて、中国ブロック内で調整を行い、平成7年5月6日、日本学校体育研究連合会理事・評議員会において、岡山県学校体育研究連合会石田会長が岡山県で開催する意志を表明し、承認されました。本県の学校体育研究連合会は小体連・中体連・高体連の3団体で構成しているため、幼稚園や特殊教育諸学校の関係者にも参画していただき本大会の準備会を開催しました。平成7年から平成8年初めにかけては大会開催基本方針、開催地及び研究発表校、研究主題、大会開催までの事業計画、予算計画、準備委員会設立等について協議し平成8年6月5日に準備委員会を発足させ、それを母体として翌年5月28日に実行委員会に移行し、全体的な組織的活動がスタートしました。「あそび・スポーツのある豊かな社会」の実現という研究主題を定め、学校体育のかわりや果たすべき役割について、現在、鋭意研究を進めているところで。

現在、急速な高齢化や自由時間の増大が進むとともに、生活の利便化に伴う運動の機会の減少、ストレス要因の増加等がみられるなど、大きな社会変化が進行しています。こうした中で、健康の保持増進や生きがいの感じられる生活を積極的に追求することは、豊かな人間性とたくましい体をはぐむ上で極めて重要と言えます。大人にとっても子供にとっても、「あそびやスポーツ」が、健康で生きがいのある生活追求に有用な働きをすることはいうまでもなく、学校期を終了するまでに、それらを楽しむ方法を習得させることが、子供たちの生涯をより豊かにするものと考えました。このためには、発達段階に応じて子供たちがどのように「あそび・運動・スポーツ」とかかわっていくかが大切であり、生涯

スポーツの基礎づくりを担う学校体育の役割の大きさをこれまで以上に認識しなくてはなりません。そして、指導に当たっては、幼児期から小学校中学年までは、運動が好きになる。小学校高学年から中学校1年生までは、運動の楽しさや喜びを味わえる。中学校2年生から高等学校3年生にかけては、運動が得意になる、という考えを共通理解し、各校種連携のもとに実践していくこととしました。また、具体的な実践においては、これまでの効率・能力・合理性の追求から、生きがい・ゆとり・心の豊かさの追求への変容を求めて、「あそび・運動・スポーツ」とのよりよい関係を積み上げていくことを主眼としています。

こうした基本的な考え方に立ちながら、第15期中央教育審議会の第一次答申の中で強調されている「生きる力」の育成を目指して研究を深めていき、とりわけ「豊かな人間性の育成」を実践の大きな柱一すなわち自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心の育成を目指した学校体育の実践を進めつつあるのが現段階です。さて、第37回岡山大会は、平成10年11月12日(木)・13日(金)の両日に築城400年を迎えた岡山城をシンボルとする岡山市および、チボリ公園を有する美しい白壁の街倉敷市の両市で開催します。12日には全体会を岡山サンフォーニーホールで行い、13日には分科会を各種学校別に計11会場で行い、公開授業をいたします。

ぜひ、ご来県いただき、本県学校体育のさらなる充実・発展のためにご指導・ご助言をいただけますよう、全国から多数の保健体育の関係者のおこしを心よりお待ちしております。

岡山大会の開催にあたり、ご指導を賜っております文部省、日本学校体育研究連合会ならびに企画・運営の細部にわたってご教示いただいております岡山県教育委員会をはじめ先催県の大会関係者の皆様方に対し、心から厚くお礼申し上げます。

大会を成功させるため関係者一同鋭意努力する所存ですが、全国の関係各位のご支援、ご協力をお願い申し上げます。次期開催県を代表してのご挨拶といたします。

Network 地区(北から南から)だより

「群馬県」学校体育研究の現状

群馬県学校体育研究連合会
会長 松下 勝



本研究連合会は、昭和29年、群馬県学校体育振興協議会と群馬県体育指導者連盟を母体にして設立した群馬県体育研究会が前身です。昭和40年、教育研究団体の再編成に合わせて、現在の群馬県学校体育研究連合会が発足しました。現在は、小学校、中学校、高等学校の学校体育研究団体と群馬大学教育学部、県・市教育委員会等の学校体育関係諸機関で組織しています。本研究連合会の目的は、学校体育関係機関の連絡・提携を図り、併せて学校体育に関する研究・調査を行い、以て学校体育振興に寄与することです。この目的を達成するために、4つの専門委員会を設けて学校体育優良校等の表彰、学校体育の研究・調査、学校体育に関する講習会・研究会等の開催、機関誌の刊行などを行っています。

群馬県保健体育優良校・功労者の表彰

小学校、中学校、高等学校の学校体育研究団体からの推薦を審査し、学校体育の研究と実践に大きく貢献した学校と指導者を表彰しています。平成9年度は優良校8校(小学校4校、中学校3校、高等学校1校)、功労者10名(小学校3名、中学校4名、高等学校3名)を群馬県学校体育研究発表会の席上で表彰し、その功績を讃えました。

研究団体における調査・研究活動

小学校、中学校・高等学校の学校体育研究団体は、それぞれの校種に応じた独自の調査・研究活動をしています。平成9年度、小学校体育研究会は、短距離走・リレーの指導法講習会、ダンス講習会や地区別授業研究会、運動会に関する調査をもとにした「運動会遊競技資料集」の発行などをしました。中学校保健体育研究会は、男女共習による陸上競技・器械運動の選択制授業の授業研究会、ダンス指導法の実技講習会やサッカー実技講習会などをしました。高等学校保健体育研究会は、保健学習の研修として、群馬大学の先生を迎えて「学校保健学習における今日的課題」と題した講演会を開催しました。また、

女子指導者を対象に、準備運動としてのジャズダンス・エアロビックスの実技講習会などをしました。

群馬県学校体育研究発表会の開催

県内の学校体育関係者が一堂に会した学校体育研究発表会を毎年11月に開催しています。平成9年度は、260名の参加を得て、11月19日に県総合教育センターで行いました。午前は、開会式及び表彰式の後、群馬大学の内田元彦名誉教授から「21世紀に向けてのスポーツ構造改革について」と題して、地域スポーツの振興と地域指導者の育成、学校体育と生涯スポーツの関係などを外国のスポーツ事情と比較しながら、日本のスポーツの新しい進め方について講演していただきました。午後は、小学校、中学校、高等学校ごとに4人の発表者による実践発表と研究協議を行いました。主な発表内容は、①主体的な取り組みを目指した選択制授業や学習過程の工夫、②自己評価活動と教師の支援活動に着目した学習カード・評価活動の工夫、③跳び箱運動やマット運動、陸上競技、保健学習などにおけるチームティーチングの導入、④ビデオやコンピュータなどの視聴覚機器を導入した体育学習、⑤保健学習における実験・実習の工夫、⑥武道(柔道、剣道、空手)指導の工夫、⑦フットサルの導入、⑧体育学習や業間活動、保健・給食指導、生徒会活動などを工夫した体力づくりの実践活動などでした。

機関誌「群馬の学校体育」の発行

群馬県体育研究会が設立された当時から発行している機関誌は、平成9年度で第44号になりました。毎年作成し、県下の小学校、中学校、高等学校や学校体育研究団体等に配布しています。主な掲載内容は、全国の保健体育功労賞や群馬県の保健体育功労賞を受賞された方々の寄稿、全国学校体育研究大会の部会別参加報告、群馬大学教育学部の先生や退会した役員の特別寄稿、県学校体育研究発表会における講演や部会別実践発表の概要などです。

「和歌山県」学校体育研究協議会の現状

和歌山県学校体育研究協議会
会長 永富 明亮

本会は、県教育委員会をはじめ、大会開催地の市町村教育委員会から多大のご支援をいただき、授業研究や研究協議を行い学校体育の一層の充実を図るため、県内8ブロック持ち回り制で年間1回、小・中・高等学校の保健体育担当者が一堂に会し、和歌山県学校体育研究大会を開催しています。

本年度は、県北部の伊都地方において、県下各地から多数の学校体育関係者の参加を得て、第24回和歌山県学校体育研究大会を盛大に開催することができました。

現在、我が国は、高齢者人口の増加と少子化が相まって、世界に類を見ない勢いで高齢化が進展しています。また、近年、日常生活における身体活動の減少とともに、社会の複雑化、高度化また、生活水準の向上や自由時間の増大など社会環境の変化、更に仕事中心から生活重視への意識の変化、心身ともに健康な生活を営もうとの認識の深まりなど、今後社会の変化が益々進展するものと予想されます。

このような状況を踏まえ、今回、中央教育審議会では、第2次の答申で、第1次同様「ゆとり」の中で「生きる力」を育むことを基本理念としつつ、「一人一人の能力や適性に合った教育」を中心としながら、「社会の変化に対応する教育の在り方」についても提言がなされました。

本研究協議会におきましても、このような提言を踏まえつつ、また、従来からの貴重な成果を継承しながら、本県学校体育の一層の充実を期して、研究主題を「生涯体育スポーツをめざす学校体育のあり方を求めて」として、小学校では「みんなで学び、楽しむ」、中学校は「自ら学ぶ選択制の授業」、高校は「興味を持って、楽しく」をテーマに、小・中・高等学校の体育担当教員が連携しながら研究実践に取り組んできました。

なかでも、児童、生徒が生涯にわたって運動に親しむ態度や能力を身につけるために、発達段階に

じて多様な運動に触れさせたり、その楽しさや喜びを味わせたり、自分にあった運動を選択させるなどして、一人一人の能力や個性を伸ばすことを重点にした学習指導の展開に取り組んできました。

そして、研究大会当日は、午前中は、滋賀大学教育学部教授の沢田和明先生に「これからの学校体育の考え方・進め方」と題した特別講演を、午後は各校種別の会場で、研究実践に基づく提案授業と研究発表や研究協議、加えて、沢田先生からは、各分科会場で今後の方向性についても貴重なご示唆をいただき一層の深まりがありました。

討議の内容となった中心は、各分科会ともに、児童・生徒一人ひとりが、自ら意志決定し、自主的、自発的に運動・スポーツに関する力や主体的にスポーツライフを創造する力を育てる学習指導の展開が課題であるとの意見が多く出されました。

この課題解決のためには、児童、生徒の発達段階を踏まえつつ、個性を一層伸ばさせるため、個に合った指導のあり方を進んで模索する必要があるとの方向づけがなされました。

なお、いつの時代においても、各種の運動を適切に行うことによって体力の向上を目指し、強い意志や、公正・協力・責任などの態度を育てることは、体育の重要な課題であること。なかでも、たくましく「生きる」ための体力や互いに協調し相手を尊重するなど、豊かな心をはぐくむことは、体育が果たさなければならない今日的な課題であるとの確認もなされました。

また、これらの成果を報告書として冊子にまとめ学校体育の一層の充実を図るため、県下全ての小・中・高等学校に配布しています。

最後に、県下各地から参加いただき、熱心な協議に加わった400余名の参加者の皆様に感謝申し上げます。

(財) 日本学校体育研究連合会小史

1 財日本学校体育指導者連盟の誕生

昭和21年文部省体育官補吉田清(日本大学名誉教授)は、東京体専校長大谷武一、東京高師教授今村嘉雄の方々と相計り、学校体育指導者団体の結成へと働いた。

当時は、終戦直後のことで、国民生活は困難・欠乏を極めた。当然、学校教育資材は皆無に等しかった。このままでは、国の復興の大原動力となる青少年の健康・気力・体力が低下する。そのためには体育を振興させねばならないということになった。

そこで、国に体育用資材、指導用衣料、食糧の増配などを陳情するためにも、また、配給の受け皿を作るためにも、前記団体の結成を急ぐ必要があった。このような時代の要請から昭和22年5月頃、日本学校体育指導者連盟が結成され、事務局は大塚窪町金子書房内に置き発足した。昭和22年末頃体育衣料や体育用品の配給があった。昭和25年2月23日日本学校体育指導者連盟は、財団法人として認可され、各都道府県毎の連合会を支部として組織し、活発な活動を進めた。

昭和30年3月、連盟は事務局を学習院大学内に移転した。この頃より連盟は、指導者の福利厚生、体育資材の配給、親睦などの本来的な役割を果たし、次第に体育指導者の資質の向上へと重点施策を転換した。

2 財「学体連」の設立

前述のような情勢の中で、昭和37年3月10日、財日本学校体育指導者連盟は発展的に解消し、財日本学校体育研究連合会が設立された。この設立に当っては、文部省西田剛体育課長および全国体育主管課長会議の指導と協力を得た。

改組後、財「学体連」は意欲的に諸事業を行った。その主なものは次の通りであった。

全国学校体育優良校表彰、全国学校体育研究大会、学校体育指導者講習会、機関紙の刊行、図書刊行、組織の充実、など多彩に亘った。

3 財「学体連」の事業概要

- (1) 全国学校体育優良校表彰
昭和26年(第1回)、平成9年(第48回)
- (2) 全国学校体育功労者表彰
昭和46年(第1回)、平成9年(第27回)
- (3) 全国学校体育研究大会
昭和37年(第1回)津田沼小学校主会場、参加人数3,000名、平成9年奈良大会(第36回)。毎回

平均約2,500名の参加を得ている。この大会は、10年岡山県、11年茨城県、12年青森県、13年宮崎県、14年北海道、15年三重県で開催予定(文部省共催)。

(4) 全国学校体育指導者講習会

平成9年までに幼稚園・保育園の部及び小学校の部は28回、中学校・高等学校の部は7回を実施。毎年開催。

(5) 図書刊行

機関紙(学校体育の研究、体育評論など若干)(会報平成8年第33号、年2回発行)。昭和55年～62年ごろに亘り、スポーツ断想3巻、親と子のライフ&スポーツ12巻、現代小学校体育全集13巻刊行など。これらの図書刊行は、大石三四郎会長、浅田隆夫常務理事の熱意と努力により実現した。

(6) 組織の充実

昭和45年の加盟団体数は36団体であったが、昭和49年今村嘉雄会長は未加盟県を行脚して加盟を促進し、大石三四郎次代会長も努力され、昭和58年組織率100%となった。

(7) 学体連の資金

終身賛助会員、特別賛助会員(K児島、日本旅行及び、教育シューズ振興会(理事長・渡辺昌平)ミズノスポーツなど)の賛助会費や寄付金、ならびに分担金などによって賄われている。

4 財「学体連」の歴代会長

<会長>

- 故大谷 武一(元東京教育大学名誉教授・元東京体専校長)
昭和25年2月23日～昭和30年10月1日
- 故東 俊郎(元日本体育協会専務理事・元順天堂大学体育学部長)
昭和30年10月26日～昭和42年10月1日
- 故栗本 義彦(元日本体育大学長)
昭和42年10月10日～昭和48年3月31日
- 故今村 嘉雄(東京教育大学名誉教授・元東京教育大学体育学部長)
昭和48年5月25日～昭和53年7月20日
- 大石三四郎(筑波大学名誉教授・元筑波大学副学長)
昭和53年8月14日～平成6年5月20日
- 浅田 隆夫(筑波大学名誉教授・元筑波大学学校教育部長)
平成6年5月21日～現在

Gakutairen 事務局だより

1. 平成10年度 常務理事会の議事摘要

副理事長 杉 山 進

平成9年度、常務理事会の日程と主な議事摘要について報告する。

具体的目標としては、1. 学校体育の研究調査の促進、2. 全国大会や研修会の内容、方法の工夫・改善、3. 幼稚園部会の組織化、4. 支部活動の実態把握その支援、5. 本連合会40周年事業計画の検討であった。特に第2回理事・評議員会及び代表者会議で要請のあった全国大会開催基準要項の作成について年度内では都合4回検討してきた。

9 0 1 回常務理事会 H 9, 4 / 15 (火)

- ・平成9年度実技研修会の実施内容の審議
- ・東京都学体研からの功労者推薦数の増配の件を審議
- ・維持会員制度の審議
- ・平成9年度第1回理事・評議員会議の議事内容の審議

9 0 2 回常務理事会 H 9, 5 / 19 (月)

- ・学体連本部事務所移転説明会の報告
- ・会報34号の発行経過報告
- ・平成9年度実技研修会準備の報告
- ・平成8年度事業報告の審議
- ・平成9年度事業計画案の審議
- ・功労者維持会員制度の審議
- ・平成12年度以降の全国大会開催の審議
- ・第1回理事・評議員会の運営の審議

9 0 3 回常務理事会 H 9, 6 / 19 (木)

- ・事務所移転日程等の報告
- ・小・中・高校実技研修会準備報告
- ・会報34号の発行経過報告
- ・研究資料の発行部数・配布方法等の審議
- ・優良校・功労者中央審査会の審議
- ・平成12年全国大会開催の審議
- ・文部省提出報告書の審議
- ・賛助会員募集の審議
- ・第1回理事・評議員会の反省

9 0 4 回常務理事会 H 9, 7 / 12 (土)

- ・文部省提出報告書の審議
- ・会報34号の発送の報告
- ・実技研修会(中・校の部)の報告
- ・優良校・功労者中央審査会の審議
- ・平成12年度全国大会開催の審議
- ・支部の活動実態調査の審議
- ・研究助成金(山梨県)の審議

9 0 5 回常務理事会 H 9, 9 / 12 (金)

- ・実技研修会の実施結果報告
- ・優良校・功労者中央審査会の審議

- ・全国大会(奈良県大会)の事前打ち合わせ内容の審議

9 0 6 回常務理事会 H 9, 10 / 21 (火)

- ・奈良大会準備状況報告
- ・優良校研究物等提出状況の報告
- ・支部の活動実態調査結果の報告と審議
- ・第2回理事・評議員会及び代表者会議議事内容の審議
- ・学校体育の諸問題に関する調査(功労者対象)結果報告
- ・40周年記念行事(小・中・高の研修会の段理)の審議
- ・研究助成金(神奈川県)の審議

9 0 7 回常務理事会 H 9, 12 / 6 (土)

- ・第2回理事・評議員会及び代表者会議議事録の確認と審議
- ・事務所移転打合会の報告
- ・奈良大会の総括審議
- ・大会開催基準要項作成の審議(1)
- ・研究助成(群馬県)の審議

9 0 8 回常務理事会 H 10, 1 / 19 (月)

- ・岡山大会の進捗状況の報告
- ・移転先事務所見学会の報告
- ・研究助成(愛知県)の審議
- ・大会開催基準要項案の審議(2)
- ・平成10年度事業計画の審議
- ・会報34号目次案の審議

9 0 9 回常務理事会 H 10, 2 / 17 (火)

- ・分担金・賛助会費の納入の報告
- ・平成10年度実技研修会日程の審議
- ・第1回理事・評議員会日程の審議
- ・平成10年度事業計画案の審議
- ・全国大会実施要項案の審議(3)
- ・事務局移転作業の審議

- ・福井県からの功労者推薦数の増配の件の審議

9 1 0 回常務理事会 H 10, 3 / 11 (金)

- ・研究助成(愛知県)の審議
- ・優良校の研究紀要の審議
- ・日本体育学会50周年記念大会との共催の審議
- ・事務所移転準備状況報告
- ・全国大会実施要項の審議(4)
- ・支部補助金の審議
- ・学体連名義使用についての審議

2. 平成10年度 研修会・全国大会日程

理事長 伊 藤 忠 一

(1) 第29回 全国学校体育実技研修会

◇幼稚園・保育園の部

- ・日 時 平成10年7月28日(火)～29日(水)
9:30～16:00
- ・会 場 竹早学園 竹早教員保育養成所
東京都文京区小石川4-1-20
TEL 03-3811-7251
- ・テーマ 「幼児の心とからだを育てる実技と理論の研修」
- ・内容と講師及び日程
その1 基調講演「幼児期の発達と運動遊び」
無藤 隆：お茶の水女子大学教授
その2 講義と実技「幼児の心と体を育てる実技と理論」
小林 美実：宝仙学園短期大学教授
その3 実技と教材研究「生活の中で自然に体を動かしたくなるリズム表現」
斉藤三恵子：台東区千束幼稚園教諭
その4 幼児の救急法実習「実践主義の傷病観察と心肺蘇生法」
小西 啓子：竹早教員保育養成所非常勤講師

第1日目 7月28日(火)

9:30	9:45	10:00-12:00	12:00-13:00	13:00-15:00	16:00-
受付	開会式	その1 基調講演	昼 食	その2 講義と実技	ボウリング の実技研修 (自由参加)

第2日目 7月29日(水)

9:50	10:00-12:00	12:00-13:00	13:00-15:00	15:00-15:15	16:00
受付	その3 実技と教材研究	昼 食	その4 幼児の救急 法実習	閉会式	自由参加 ボウリングの実技研修

◇小学校の部

- ・期 日 平成10年7月30日(木)～31日(金)
- ・会 場 東京都足立区立千寿本町小学校
東京都足立区千住3-30
TEL 03-3888-8361
- ・テーマ 「子どもに魅力ある教材づくりと、子どもの願いを支える教師の支援」
- ・研修内容及び講師
講演 「体育の学習指導における基礎・基本と個性の伸長」
実技 1>基本の運動(動きの課題と態度の内容)
2>ゲーム(子どもが喜ぶゲームとルールの発展)
3>体操(運動の内容と必要性の理解)

- 4>器械運動(枝の系統と選択のさせ方)
- 5>陸上運動(目標記録のめやすと用具の工夫)
- 6>水泳(助言言葉とめあてのもたせ方)
- 7>ボール運動(個人の課題とグループの課題)
- 8>表現運動(運動会向けの模倣、表現、ダンス)

・日 程 雨天実施

	8:30	9:00	9:30	11:00	12:30	13:40	15:10	16:40
第一日 7月30日 (木)	受付	開講式	A班 基本の運動	ゲーム	昼食	器械運動	ボール運動	
			B班 ゲーム	基本の運動	休憩	陸上運動		
第二日 7月31日 (金)	受付	A班	体操	水泳	昼食	閉講式	ボウリング研修 15:00～ (自由参加 無料・軽食付き)	
		B班	表現運動	休憩	講演			
	8:30	9:00	10:30	12:10	13:20	14:20		

* 器械運動、陸上運動、体操、表現運動は、受講者が選択する。

(2) 第8回中・高校保健体育実技講習会

- ・日 時 平成10年7月4日13:30～17:00
- ・会 場 文化女子大学附属杉並高校
杉並区阿佐ヶ谷南3-48-16
TEL 03-3392-6636(代)

・研修内容及び講師

実技 バレーボールの実技研修と指導法
加藤勇之助：筑波大学付属駒場中・高等学校教諭
アシスタント 岩本 節子

・申込先 〒107 港区北青山1-1-9

港区立青山中学校 川島 恂
TEL 03-3404-7521

(3) 申込方法(幼稚園・保育園の部、小学校の部)

- ・申込先 〒151 東京都渋谷区代々木神園3-1
国立オリンピック記念青少年総合センター内

財団法人 日本学校体育研究連合会
会長 浅田 隆夫

TEL 03-3465-3954 FAX 03-3465-7464

・参加費 幼・小共に3,000円(含資料費)

・参加費振込方法

- * 別添郵便振込用紙を使用して振り込む。
- * 振込用紙がない場合は、郵便局で振替用紙を貰って振り込む。
- * 口座番号 東京 00130-2-563814

学体連事務局

第37回 全国学校体育研究大会

- ・研究主題 「あそび・スポーツのある豊かな社会」
— 学校体育の役割 —
- ・期 日 平成10年11月12日(木)～13日(金)

- ・全体会場(第1日) 岡山シンフォニーホール
〒700-0822 岡山市東町1丁目5-1
- ・分科会場(第2日) 小・中・高等・養護学校
- ・理事・評議員会及び代表者会
- ・日 時 平成10年11月11日(水)14時～16時
- ・会 場 まきび会館

3. 平成10年度 事務局からのお願い

事務局 山 本 久 子

事務局が4月より新築されましたセンター棟3階に移りました。

- ① 県によっては事務局の変る所もあるかと思われ
ますが、該当県は速やかにその旨ご連絡下さい。
- ② 年度初めの書類は前年度事務局並びに県教育委員
会宛に送付されると思いますので配慮お願い
いたします。
- ③ 「納入方法について」
下記の方法でお願いいたします。

(イ) 分担金

- (イ) 全国学校体育研究大会資料集の申し込み
(10年度岡山県)

(イ) 全国学校体育研修会申し込み

(幼稚園、保育園の部、小学校の部)

(イ) 一般賛助会費、終身賛助会員(個人の部)

以上(イ)～(イ)に関してはすべて郵便振込とします。

郵便振込 口座番号

東京 00130-2-563814

学体連事務局

いずれも書類発送時に振込用紙を同封致します。

- ④ 特別賛助会員団体会費納入方法について
振込宛先 東京三菱銀行 新宿西口支店
普通預金 口座 6418028

(財) 日本学校体育研究連合会

会長 浅田 隆夫

⑤ その他、連絡事項

(1) 事務局開局日時について

週3回(13時～17時)出勤しておりますが曜日
については若干、不定期となることがあります。
連絡が取れない場合は、出来るだけFAX
をご利用いただければと思います。

(2) 事務局本部 国立オリンピック記念青少年総合 センター内センター棟3階です。

FAX 03-3465-7464

TEL 03-3465-3954

平成9年度 賛助会員一覧表

終身賛助会員(3万円)	山 梨	早 川 省 三	一般賛助会費(1万円)	東 京	高 野	山 口	入 江 彰 治
青 森	花 田 稔	石 川 安 藤 久 信	北 海 道	牧 豊 子	山 梨	三 崎 重 郎	福 井 西 行 美
秋 田	鈴 木 和 男	静 岡 新 井 幸 男		北 村 邦 次	新 潟	南 波 康 二	鳥 取 草 刈 啓 修
福 島	石 田 威	愛 知 岩 山 知 司	宮 城	佐 々 木 郷	愛 知	丸 山 益 生	香 川 村 上 克 美
茨 城	大 塚 雄 一	兵 庫 新 井 嘉 壽 美	山 形	加 藤 寛 治		山 内 満	徳 島 居 上 雅 美
	皆 葉 卓 郎	井 上 利 彦		石 川 力 彰	岐 阜	水 野 卓 夫	愛 媛 村 上 庄 次 郎
栃 木	山 本 敬 子	愛 媛 渡 部 修 治	茨 城	飯 田 久 夫	奈 良	松 浦 史 郎	福 岡 安 武 満 信
群 馬	芝 崎 正 之	高 知 倉 松 一 夫	埼 玉	内 田 健 一		森 田 喜 雄	長 崎 本 村 喜 信
	山 岸 不 二	宮 崎 村 中 晴 朗	千 葉	永 野 泉 彦		潮 田 作 三 男	今 回 限 り で す。(2名)
東 京	小 田 島 正 門	大 分 栗 林 正 幸		河 野 廣 治	岡 山	大 西 富 男	福 井 濱 本 量 子
							新 潟 高 野 正 也

平成10年度役員・理事・評議員一覧表

H. 10.6.20 現在
日本学校体育研究会
TEL:03-3465-3954 FAX:03-3465-7464

Table with 4 columns: 担当職務, 氏名, 現職・職名, 電話. Lists board members and their contact information.

Table with 4 columns: No, 県, 理事氏名, 現職・職名, 電話. Lists regional representatives and their contact information.

支部組織活動調査報告

平成9年度11月に各支部の活動状況調査を実施いたしましたところ、多数の支部よりご回答をいただきました。
今回、そのうちの総会と研究会等についてまとめたものを掲載いたします。

Table with 10 columns: 支部名, 総会, 時期, 人数, 研究会, 時期, 人数, 内容, 費用, 大会名称. Reports on branch activities and research activities.

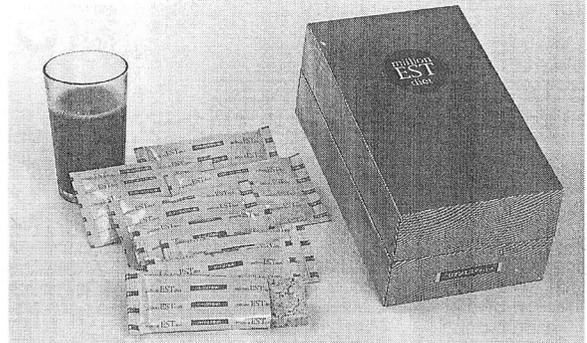
支部名	総会	時期	人数	研究会	時期	人数	内容	費用	大会名称
滋賀	無				2中	240	講演、研究発表	117100	県学校体育研究発表会
小	無			有	2上	60	公開授業、研究発表	180000	小教研体育部会研究発表会
中	無			有	6上	20			教育研究発表協議会
高	有	5下	50						
大阪	小中で	5下	55	有	1下	513	研究発表		大阪小中学校研究発表会
小	有	5	250	有	2	310	公開授業、研究発表	0	大阪市小教研体育部総合研究発表会
中	有	5	500	有	10下	170	公開授業、研究発表	182000	大阪市中教研体育部研究発表会
高	有	5中	110	有	11中	125	講演、研究発表	450000	県学校体育研究発表大会
兵庫	無			有	2中	297	講演、研究発表	150000	県小教研体育部会研究大会
小	有	5下	50	有	10下	500	講演、公開授業、研究発表、表彰	130000	県中教研保健体育部会中央研究発表大会
中	有	5	60	有	11	250	講演、公開授業、研究発表		女子体育指導者研修会、部活動研究発表大会
高	有	5	345	有	10	100	講演、シンポ、実技研修、公開授業	250000	県学校体育研究大会
奈良	有	6下	65	有	1中	150	講演、研究発表	660000	県学校体育研究大会
和歌山	有	5中	19	有	11中	350	講演、公開授業、研究発表、表彰		
小	無	5中	18	有	"	内150	"	"	"
中	無			有	"	内110	"	"	"
高	有	5中	60	有	"	内70	"	"	"
鳥取	有	5下	15	無				400000	県小中学校体育研究発表大会
小	有	5下	30	有	6か11		講演、公開授業、研究発表	100000	県中学校保健体育研究発表会
中	有	5中	30	有	11	60	公開授業、研究発表		
高	有	5中	20	無					
島根	有	5下	28	有	7下	160	講演、実技研修	530000	県女子体育指導者研修会
岡山	有	5中	23	有	2下	400	講演、シンポ、研究発表	446000	県体力づくり研究推進大会
広島	小	有	10、2	有	10	100	講演、公開授業、研究発表	500000	
山口	小	無		有	7~8	110	講演、公開授業、研究発表		不明 県小中学校体育指導者夏季研修会
中	無			有	10頃	130	講演、シンポ、研究発表		不明 県中学校教育研究会保健体育部会
高	無			有	11頃	70	研究発表		不明 県高教研保健体育部会
徳島	有	6	16	有	1	230	公開授業、研究発表、分科会	120000	県学校体育合同研究大会
香川	有	7	18	無					
小	有	6~7	14	無					
中	有	5上	35	有	10中	300	講演、公開授業、研究発表	200000	県中学校教育研究大会
高	有	4中	55	有	9上	130	講演、研究発表	約40万	県高等学校体育連盟研究大会
愛媛	小	有	4下	有	8下	250	講演、研究発表	10万	県小中学校教員体育研修会
中	有	4中	80	無					
高知	無			有	70		講演、研究発表	70000	高体連研究大会
福岡	有	6下	34	有	11中	430	講演、研究発表、研究発表	12000	県学校体育保健研究大会
福岡	小	有	10	有	10	200	公開授業、研究発表	180000	県小中学校体育研究会
中	無			有	10	90	研究発表	70000	県学校保健体育研究大会
高本	有	6	120	有	2	100	講演、研究発表		県学校保健体育・スポーツ指導者研修会
熊本	無			有	11下	500	講演、シンポ、公開授業、研究発表	149万	県学校体育研究発表大会(3年に一度)
小	有	5下	50	有	11下	150	講演、シンポ、公開、研究発表	330000	県小中学校体育研究発表大会
中	有	5	48	有	11	240	講演、公開、研究発表、表彰	70000	県中学校保健体育研究発表大会
高	有	5中	110	有	11中	120	講演、シンポ、公開、研究発表	250000	県高等学校教育研究会体育部会
大分	有			有	390		講演、公開、研究発表	105万	県学校体育研究大会
小	有	5	46	有	11	120	公開、研究発表		県小教研協同校発表大会
中	有	6、9	50	有					県中学校保健体育研究会
高	無			有					
宮崎	無			有	10末	750	講演、公開、研究発表、研究協議	142万	県学校体育研究大会
小	無				内230				
中	無				内270				
高	無			有	7		計200講演、公開、研究発表、実技研修		他に支部高等学校体育研究会(6支部)
鹿児島	無			有	11	200	講演、研究発表	500万	いきいき子ども推進発表会
沖縄	有	3下	18	有	11中	400	講演、公開、研究発表、表彰	170000	県学校体育研究大会
小	有	4下	13		内150				
中	有				内150				
高	有	6中	40		内50				

安全・確実・美しく痩せる



ミリオン・エステ・ダイエット

<チャレンジセット>2週間28食分(パウダー28袋、バー28本)
標準小売価格 38,000円(税別)
<アフターセット>1週間14食分(パウダー14袋、バー14本)
標準小売価格 19,000円(税別)



1日に1食が2食、お食事代わりに食べるだけ。

必要な栄養をしっかりと摂りながら、摂取カロリーを最小限に抑える理想のダイエット法です。US・RDA基準を上回る各種栄養素を含む低カロリー総合栄養食品ですから安心。しかも、簡単、確実です。

詳しい資料及びお問い合わせは
ミリオン株式会社

〒331-0852 大宮市桜木町1-12-5
Tel 048-641-2291
Fax 048-641-4011

ホームページ
<http://www.millionpower.co.jp>

成長期の正しい足の発育促進に
大きな効果を発揮する
画期的な21世紀のシューズ

教育シューズ フットユ21



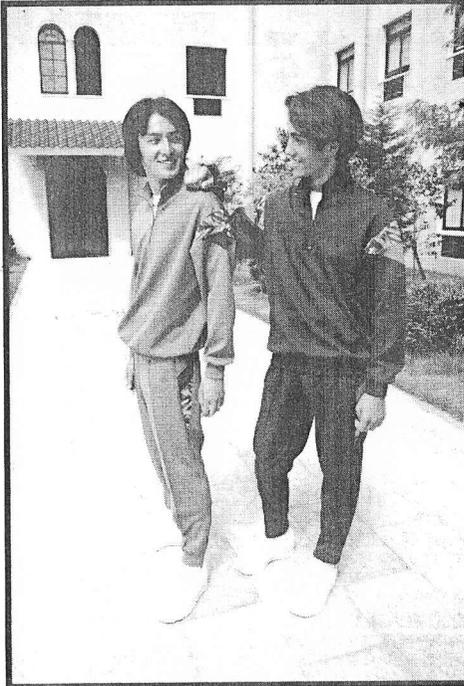
<製造元> 財団法人日本学校体育研究連合会特別賛助会員

教育シューズ振興会

日進ゴム株式会社

本社・工場/岡山市高柳東町13-46
TEL(086)252-2456 FAX(086)254-8595

柔らかい育ち盛りの子供の足は合わない靴で、たやすく形が変わり、それは、将来心身ともに大きな問題となります。



一生懸命が、
新しい夢を育む。

Columbine
コロバインスクールスポーツウェア

(財)日本学校体育研究連合会特別賛助会員
(財)日本学校体育研究連合会推薦品

URL: <http://www.nettaputa.or.jp/~kojima> email: kojima@urban.or.jp

児島株式会社

岡山県倉敷市児島小川12-4-60 TEL.086-473-4634

■ 関東営業所

埼玉県大宮市上小町1085 TEL.048-642-5883

■ 盛岡営業所

岩手県盛岡市流通センター北1丁目4-18
TEL.0196-38-7501

(財)日本学校体育研究連合会 特別賛助会員

ジェイアイができること。

国内はもとより海外の主要34都市に、ネットワークをもつ"Jiデスク"を中心に、皆様ひとりひとりの安心をカタチにするお手伝いをいたします。

●各種損害保険に関するお問い合わせは、フリーダイヤルでお気軽に。

0120-292-797



傷害保険
海外旅行保険
学生総合保険
火災保険

インターナショナル安心ネットワーク
ジェイアイ傷害火災保険株式会社
〒102 東京都千代田区一番町20-5 TEL.03(3237)2111

情報化時代におくる

メッセージ

おだやかな光、鋭いひかり
大自然の偉大さ、尊さを相手に人のできることは
経験を積み謙虚さを学ぶことです。
信頼の時を重ねて半世紀余
あらゆる印刷のニーズに応えるために
合同は今日も研鑽をつづけています。

● 御注文専門の印刷デパート



東京 合同印刷株式會社
墨田

東京都墨田区業平2-9-13 TEL.(3624)6111(代) FAX(3621)4620

代表取締役社長 長棟和子

— ご来店不要の簡単な宿泊予約システム —

日本旅行のおすすめプラン「楽コール」のお知らせ

日本旅行ではご来店いただいておりますのお申し込みと、お電話だけでご旅行の準備が完了する便利な「楽(ラッ)コール」でお客様の申し込みをお待ちしております。



クレジットカードをお持ちの
お客様だけのご来店不要システムです。
(宿泊+JRきっぷ、航空券等)

宿とあわせてJRや
航空券の予約も
OK

宿泊プランのパンフレットから、ご希望のプランをお選び下さい。お宿が決まったらお電話下さい。

お電話だけでお申し込みが可能。電話で回答いたします。

宿泊クーポン券とその他のチケットを郵送いたします。(わざわざ来店しなくても旅の準備が完了します。)

お支払いはお申し込みカードの指定口座より自動引落し。あとは、クーポンを持ってご出発。

<ご案内>

※ご利用いただけるカードは赤い風船マツハカード、VISA、UC、JCB、日本信販、DC、AMEX、ダイナース、ミリオン、オリコ及びVISA、UCカード等のロゴマークの入っているカード。

※楽(ラッ)コールの利用代金(含む送料)として620円(税込)がかかります。また、取扱料金は別途がかかります。

※楽(ラッ)コールは、日本旅行及び日本旅行北海道の支店だけのご利用となります。また、一部扱えない商品もあります。詳しくは支店係員におたずね下さい。

1ヶ月間
無償貸出



アルファマットは
スポーツ疲労を翌日に残さない
毎日がベストコンディション!

Jリーグ ベルマーレ平塚の選手達、沖電気宮崎(マリノ)の渡部峰子キャプテン、プロ野球選手他多数遠征先にもアルファマットを持ち込んでいらしゃいます。全国の学校が早速取り入れています!

ご希望があれば当社提携先の実技指導の専門家がお実演・説明致します
(財)日本学校体育研究連合会 特別賛助会員
アール株式会社 東京都豊島区南大塚3-20-6 大塚FTEビルF
フリーダイヤル 0120-888-175

スポーツ科学の未来に向けて

SPORTS TEST

文部省実施要項準拠
小・中・高校用
スポーツテスト集計・
分析システム

集計・分析処理料金1人分210円(税別)

マークシート記入代行
無料サービス

2週間で
集計・分析資料を
お届けします



みつめたい教育と未来
第一学習社
スポーツテスト研究会

(東京) 千116-0013 荒川区西日暮里2-50-5 ☎ 03(3891)9802 Fax 03(5604)7374

(大阪) 千564-0044 吹田市南金田2-19-18 ☎ 06(380)1391 Fax 06(368)1018

(広島) 千733-8521 広島市西区横川新町7-14 ☎ 082(234)6800 Fax 082(503)3084

札幌・仙台・小山・横浜・名古屋・福岡・金沢・新潟

ESPA

EDUCATION SHOES PROMOTIVE ASSOCIATION

人にやさしく、足にやさしい
運動機能を高める
科学されたシューズ。

教育シューズ

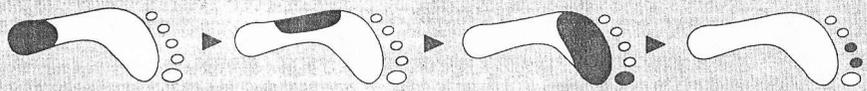
機能・特性

通気快適性

衝撃吸収性

運動安全性

より良いシューズで正しい運動・歩行を



歩行時の足裏の体重の移動

財団法人 日本学校体育研究連合会特別賛助会員

教育
シューズ

教育シューズ振興会

本部事務局 〒700 岡山市高柳東町13番46号 日進ゴム(株)内
TEL (086)252-4381 FAX (086)254-8595